

日本薬剤師会生涯学習支援システム



2012年3月

日本薬剤師会

目 次

生涯学習支援システム「JPALS」のスタートにあたって	1
生涯学習支援システム「JPALS」について	2
「JPALS」ご利用ガイド	9
クリニカルラダー解説	17
ポートフォリオの利用に際して	20
薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード	
クリニカルラダーレベル別	25
領域別	37
「JPALS」の検討、周知の経過	47
生涯学習宣言、生涯学習委員会	48

生涯学習支援システム「JPALS」のスタートにあたって

日本薬剤師会

会長 児 玉 孝

平成 24 年度には、いよいよ 6 年制薬剤師養成教育を修了した薬剤師が誕生します。後輩たちを歓迎するとともに、指導する側の我々先輩薬剤師も更に身を引き締めなくてはなりません。昨年末には薬剤師国家公務員俸給表が改正され、待遇面でも教育年限を考慮した体系とされたことから、医薬品の供給を通じ、国民の健康面の安心と安全を守る立場にある薬剤師への期待が、より大きくなってきていると認識しております。

そういった期待に応えるため、本会では、生涯学習支援を形にするべく生涯学習委員会を中心に検討を重ね、「JPALS」を構築いたしました。日本のすべての職域の薬剤師が迷うことなく生涯学習に取り組んでいただけるよう、本会が提供するものです。一人一人が学習した記録を残し、自身の位置を確認しながら、学習の計画を立て、学習したことをバネにして自己研鑽を継続していくことができます。この繰り返しの地道な努力が、国民から信頼される薬剤師への近道であると信じています。薬剤師人生一生分の学習記録を残すことを目指して、是非、4 月より本システムをご利用ください。

生涯学習支援システム「JPALS」について

日本薬剤師会の生涯学習支援の基本方針

近年の医療の高度化・複雑化に伴い、在宅医療、チーム医療等、薬剤師に求められる職能も次第に広がり、質の高さが問われています。医療は日進月歩であり、薬剤師にとって生涯学習は責務と言っても過言ではありません。患者・国民の医療に対するニーズが多様化する中、信頼され求められる薬剤師となるためには、一人ひとりが目標を定めて研鑽を積むことが必要です。本会ではそのような視点を軸に、ジェネラリストの養成を第一の目的として、生涯学習支援のため取り組みを進めてきました。

6年制薬剤師の誕生と、国際的な潮流であるCPDとポートフォリオ

前述の基本方針に基づき、本年4月、本会はWeb上の「日本薬剤師会生涯学習支援システム」（愛称「JPALS」）【図1】をスタートします。「ポートフォリオシステム」（学習記録システム）と「e-ラーニ

ングシステム」の2つのシステムが利用可能となります。（システムの解説は後掲。）システム構築に至った経緯として、6年制薬剤師の誕生があります。6年制は他の先進国に引けを取らない教育制度となりますが、卒後の生涯学習は各個人に委ねられており、世界に通用する薬剤師を育てるためには、新しい生涯学習支援システムが必要と考えました。

多くの先進国では、国際薬剤師・薬学連合（International Pharmaceutical Federation 以下、FIP）が提唱する「継続的な専門能力開発」（Continuing Professional Development 以下、CPD）【図2】の考え方に基づいて生涯学習の義務化と免許更新が制度化されており、薬剤師職能の維持・向上のために重要な役割を果たしています。FIPは、CPDを次のように定義しています。

「the responsibility of individual pharmacists for systematic maintenance, development and broadening of knowledge, skills and attitudes, to ensure continuing competence as a professional, throughout their careers.」*（生涯にわたりプロフェッショ



ジェイパルス

Japan Pharmaceutical Association life long Learning support System

日本薬剤師会生涯学習支援システム

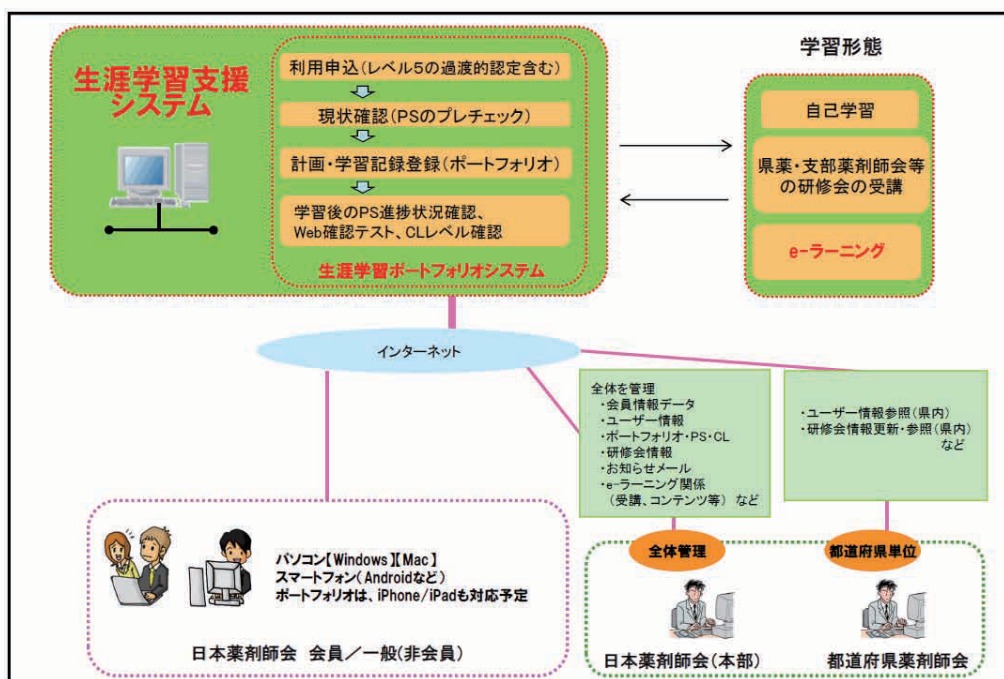


図1 生涯学習システム 全体像

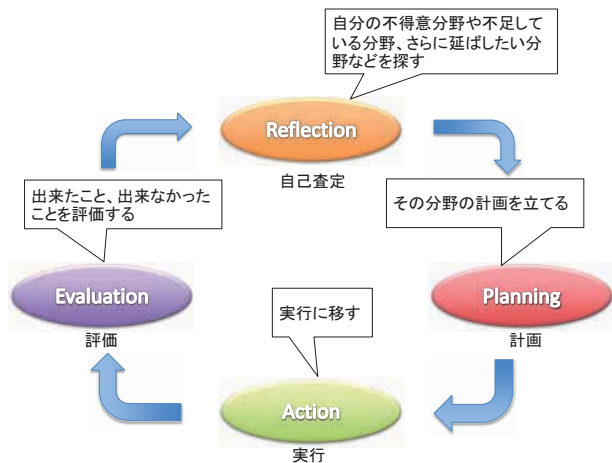


図2 継続的な専門能力開発 CPD (Continuing Professional Development)

ナルとして継続的な能力を確保するために「知識、技能、態度」を体系的に発展させ拡大し維持していく薬剤師個々の責務。）

CPDは、日々の薬剤師の業務や役割の中で、個々の薬剤師が取得すべき知識・スキルが何かを「振り返って自己査定 (reflection)」し、それに対して「学習計画を立て (planning)」、 「実践し (action)」、それを「評価する (evaluation)」という4つのステップを繰り返す学習方法です。その際、自身の学習状況を把握するために記録が必要になり、その記録を行うアイテムがポートフォリオ (Portfolio) です。元の意味は「紙挟み」のことで、生涯学習では「学習記録」のことを言います。CPDを実践するには、学習状況を整理し分析する必要があり、記録を残すことが重要となります。例えば講演を聴いて、初めて知ったことや理解できなかった内容を記録しておけば、理解できなかったことについて自己学習を実施し、その学習を完結することができます。日本の生涯学習もこのCPDを基本としたやり方に変えていく必要があるのです。

薬剤師に求められる プロフェッショナルスタンダード

システム構築に先立ち、日本薬剤師会は、平成21年4月に「薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード」(Professional Standard, 以下PS)【表1】を公表しました。これまで提供されてきた多くの学習方法は、講義や講演を中心とした、どちらかと言えば受身型の講習会や研修会が中心であり、比較的継続性に乏しいという声もありました。そこで、より実効性があり、意欲やモチベーションを維持・高揚する生涯学習制度の構築には何が必要なのか、薬剤師とは何かをもう一度原点から見つめ直した結果、薬剤師が目指すべき目標を明確に示すことにあるとの考えに至り、その具体的な指標として考案したものがPSです。PSは、薬剤師が生涯に亘っ

て学習すべき以下の5つの領域に基づいて構成しており、それぞれの薬剤師の経験やこれまで習得してきた知識に応じ、当然具備すべき、また期待される知識・技能・態度を指標とする目標を分類し整理してあります。別の言い方をすれば、スペシャリストの医師と患者をつなぐために、ジェネラリストとしての薬剤師がその職能を十二分に発揮できるように習得しておくべき学習目標をPSにまとめてあるとご理解ください。

1. ヒューマニズム (倫理)
2. 医薬品の適正使用 (安全性, 経済性)
3. 地域住民の健康増進 (薬物乱用防止, セルフメディケーション)
4. リスクマネジメント
5. 法律制度の遵守

ポートフォリオシステム

システムの大きな柱「ポートフォリオシステム」は、薬剤師自らがWeb版ポートフォリオ【図3-2】に学習した内容を記入する簡単なものです。CPDのサイクルに則って、振り返り、計画し、実践し、評価するという一連の流れの結果をポートフォリオに記録することで、学習の進捗状況を把握できます。【図3-1】

「振り返って自己査定 (reflection)」, すなわち自身を振り返り、日々の業務から学習すべき目標を立てることは、他の先進国のようにCPDを実践してこなかった日本の薬剤師には難しいかもしれません。そこで、本システムではPSを指標として利用いただくことにしました。システム利用開始時にPSのチェック (学習した or していないのチェック) を行うことで、現状を把握できます。計画を立て、学習を実践した結果、学習できたPSがあれば、その時点でチェックしていきます。【図3-3】。必要な学習目標がPS以外にあれば、CPDに沿って実行し、ポートフォリオに記録します。ポートフォリオへの記録は、研修会などの受講記録として利用することをイメージしがちですが、そうとは限りません。個々の活動歴、実績歴や目標到達のための軌跡など、自らの意志で集めた情報を一元化するために、自己学習や日常業務の中で得られた成果をポートフォリオに記録していいのです。薬剤師としての薬局外の社会活動なども対象になります。自分自身が「学習した。記録に残したい。」と思ったことをポートフォリオに残すことができるのです。

ポートフォリオシステムでの 評価方法

日本においても、これまで多くの薬剤師が様々な生涯学習を実践し、日々自己研鑽に励んできたこと

表1 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード
 (「領域別」版より一部抜粋, 領域1: ヒューマニズム)

【1. ヒューマニズム (倫理)】

一般目標	No.	到達目標	難易度
1. 生命の尊厳を認識するために、医療人としての倫理観と責任感を身に付ける	1	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる	1
	2	医療の担い手として、社会のニーズを把握できる	2
	3	医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる	2
	4	医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案できる	3
	5	医療倫理の歴史(ヘルシンキ宣言・ヒポクラテスの誓いなど)を概説できる	1
	6	医療にかかわる倫理的問題を列挙できる	1
	7	医療に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる	2
	8	薬剤師倫理規定を概説できる	1
	9	薬剤師綱領を概説できる	1
	10	薬剤師に係わる倫理的問題について討議する	2
	11	医療法第1条の2を概説できる	1
	12	薬剤師法第1条について概説できる	1
	13	人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する	2
	14	環境に配慮する意義を考察し、討議する	2
	15	自らの体験を通して、生命の尊厳と医療のかかりについて討議する	3
	16	救命救急に薬剤師が関わる意義を説明できる	3
	17	死にかかわる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)について討議する	3
	18	予防、治療、延命、QOLについて説明できる	3
	19	誕生にかかわる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる	4
	20	医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植、再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる	4
	21	医療にかかわる諸問題から、自ら課題を見だし、それを解決する能力を醸成する	4
2. 患者中心の医療を実現するために、チーム医療の一員としての基本的な知識・技能・態度を修得する	1	「薬剤師の接遇マニュアル」を概説できる	1
	2	「薬剤師の接遇マニュアル」に基づいて行動できる	2
	3	「対面話法例示集」を概説できる	1
	4	「対面話法例示集」に基づいて行動できる	2
	5	チームワークの重要性を例示して説明できる	1
	6	薬剤師の職能を認識し、必要に応じて他職種に助言などを求めるなどの処置ができる	2
	7	医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携の重要性を討議する	2
	8	医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携を実践できる	3
	9	他職種と連携を取り、協調的態度で役割を実践できる	3
	10	言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる	2
	11	相手の立場、文化、習慣が異なることを理解し、コミュニケーションのあり方に配慮できる	4
3. 患者および家族の心情を理解するために、薬剤師が担う行為の重要性を認識する	1	インフォームドコンセントの定義と必要性を説明できる	1
	2	ファーマシューティカルケアについて説明できる	1
	3	ファーマシューティカルケアに基づいて行動できる	2
	4	患者の心理状態を把握し、配慮できる	2
	5	相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応できる	3
	6	不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する	1
	7	ターミナルケアにおける薬剤師の役割について説明できる	2
	8	ホスピスなどの施設の意義について説明できる	2
	9	ターミナルケアにおける薬剤師の役割を実践できる	3
	10	ホスピスなどの施設で薬剤師の役割を実践できる	4
	11	疼痛緩和について説明できる	2
	12	疼痛緩和ケアについて実践できる	3
	13	末期患者の精神的ケアについて説明できる	2
	14	末期患者の精神的ケアについて実践できる	3
	15	認知症のケアについて説明できる	2
	16	認知症のケアについて実践できる	3
	17	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる	2
	18	病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる	3
	19	患者および家族の心理状態を把握し、配慮できる	3
	20	患者やその家族のもつ価値観が多様であることを認識し、総合的に実践できる	4
	21	臨床心理学の必要性について説明できる	2
	22	交流分析の必要性について説明できる	2
	23	家族力学について理解し、実践できる	4
4. 患者が自分の疾患に正面から向き合い、治療に積極的に取り組めるようサポートするための知識・技能・態度を身に付ける	1	病名を宣告された患者や家族の心理状態について配慮できる	2
	2	簡易的なカウンセリングスキルについて説明できる	2
	3	患者やその家族の話を傾聴することができる	2
	4	患者やその家族が持つ精神的な問題点を把握することができる	3
	5	患者やその家族が、直面する問題に前向きに対処できるようサポートできる	4



図3-1 Web版ポートフォリオ (ログイン後のトップページイメージ)



図3-2 Web版ポートフォリオ(「実践記録」画面イメージ)



図3-3 Web版ポートフォリオ(「PS登録」画面イメージ)

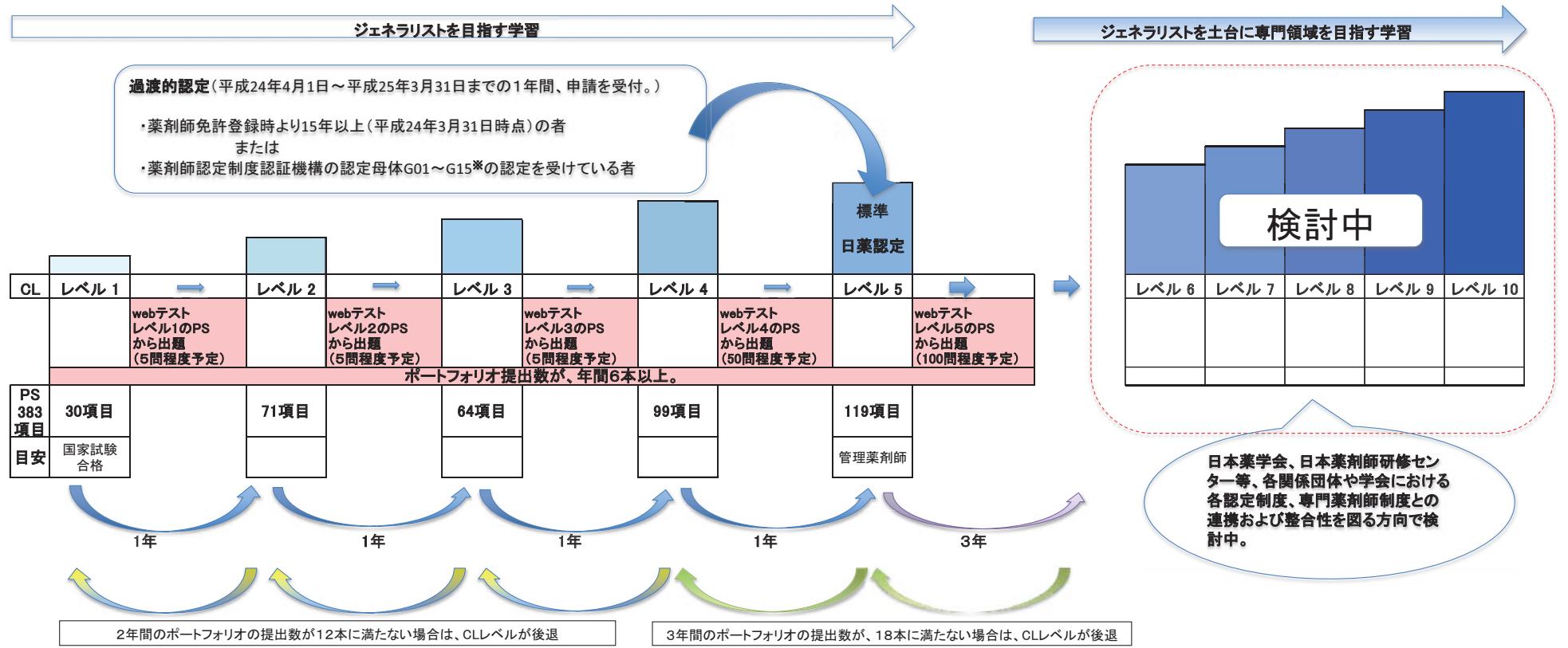


図4 クリニカルラダー (CL) イメージ

は事実です。しかしながら、自身を評価する場面がなかったために、学習内容が偏りがちでした。また、ポートフォリオを書き溜めていくことで、薬剤師としての資質を高めていくことはできますが、一般的に人が向上するためには「ルール（基準）」と「競い合い」と「判定（評価）」が必要と言われています。

そこでクリニカルラダー（Clinical Ladder 以下、CL）【図4】を考案しました。CLは、PSとともにポートフォリオへの記録という取り組みを支える「競い合い、評価」の仕組みとなります。日本人にとって評価とは、「他人から優劣をつけられること」というイメージが強いようですが、本システムにおけるPSを指標とした評価はあくまでも自己評価であり、自身へのフィードバックを目的としています。CLにはレベル1～10までが予定されており、レベル1を新人薬剤師程度、レベル5を管理薬剤師程度としています。レベル5までは「ジェネラリストを目指す学習」、レベル6以上は「ジェネラリストを土台に専門領域を目指す学習」とし、レベル5では本会による認定を行います。ポートフォリオの記録を主眼に置くため、「年間6本以上のポートフォリオ提出」を基本の条件とし、Webテストに合格すれば、レ

ベル6まで順次、次のレベルに進むことが可能となります。Webテストは各レベルに振り分けられたPS【表2】の中から出題されます。ポートフォリオの提出が年間6本に満たない場合は、レベルが降格する仕組みとなっています。レベル6より上の昇格条件等は現在検討中です。

過渡的認定

4月のシステム稼働時から期間限定（平成24年4月1日～25年3月31日）で、「薬剤師免許登録時より15年以上（平成24年3月31日現在）の方」（その間の実務経験、内容は問いません）または「薬剤師認定制度認証機構の認証した生涯学習制度の実施母体（G01～15、P01、P02）【表3】の認定を取得されている方」を、「過渡的に」クリニカルラダーレベル5に認定する「過渡的認定」の申請をシステム上で受け付けいたします。すでに自己研鑽を十分に積み、後輩薬剤師を育てる指導者レベルの方を過渡的に認定する特別の措置です。実務経験がなく、ご自身でその資格がないと判断される場合は、レベル1からスタートしてください。認定されますと、

表2 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード
（「クリニカルラダーレベル別」版より一部抜粋、クリニカルラダーレベル1）

CL LEVEL 1		
領域	一般目標 - 到達目標	到達目標（30項目）
1	1-1-1	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
2	1-1-5	医療倫理の歴史（ヘルシンキ宣言・ヒポクラテスの誓いなど）を概説できる
3	1-1-8	薬剤師倫理規定を概説できる
4	1-1-9	薬剤師綱領を概説できる
5	1-1-11	医療法第1条の2を概説できる
6	1-1-12	薬剤師法第1条について概説できる
7	1-2-1	「薬剤師の接遇マニュアル」を概説できる
8	1-2-3	「対面話法例示集」を概説できる
9	1-2-5	チームワークの重要性を例示して説明できる
10	2-1-1	様々な情報源とその特徴について説明できる
11	2-1-2	情報収集に必要な設備について説明できる
12	2-1-3	情報通信機器を利用した文献検索の手順を列挙できる
13	2-1-4	情報通信機器を利用して医薬品に関する最新情報を収集できる
14	2-1-6	当該医薬品の最新の添付文書およびインタビューフォームが収集できる
15	2-1-8	医療用医薬品と一般用医薬品の違いを説明できる
16	2-1-40	代表的な消毒薬を列挙できる
17	2-2-1	一般名に対応する後発医薬品について列挙できる
18	2-2-123	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子を列挙できる
19	2-2-126	薬物の胎児移行性について説明できる
20	2-2-130	薬物の主要排泄経路と排泄様式について説明できる
21	2-2-131	薬物の初回通過効果について説明できる
22	2-2-140	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
23	2-2-143	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
24	2-2-145	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
25	2-2-148	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
26	3-1-1	セルフメディケーションの必要性を適切に説明できる
27	3-1-3	一般用医薬品の第一類、二類、三類について概説できる
28	4-1-2	「ヒヤリハット事例」を報告できる
29	5-1-6	麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法等を説明できる
30	5-1-8	個人情報保護法について説明できる

表3 薬剤師認定制度認証機構の認証した生涯学習制度の実施母体
(G01～15, P01, P02)

(薬剤師認定制度認証機構HPより)

G01	財団法人 日本薬剤師研修センター
G02	東邦大学薬学部
G03	一般社団法人 薬剤師あゆみの会
G04	慶應義塾大学薬学部
G05	一般社団法人 イオン・ハビコム人材総合研修機構
G06	明治薬科大学
G07	神戸薬科大学
G08	社団法人 石川県薬剤師会
G09	新潟薬科大学
G10	北海道薬科大学
G11	星薬科大学
G12	一般社団法人 昭薬同窓会平成塾
G13	学校法人 医学アカデミー薬学ゼミナール 生涯学習センター
G14	北海道医療大学
G15	埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター
P01	NPO法人 医薬品ライフタイムマネジメントセンター
P02	一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会

レベル1から上がって来られる方と同様の規則に従って生涯学習をしていただくことが条件となります。ポートフォリオを年間6本以上登録していただかないとレベルが降格する点も同様です。該当される方には是非「過渡的認定」を申請いただき、レベル5の認定を受けられ、リーダーシップを取っていただくことを期待いたします。

e-ラーニングシステム

もう一つのシステム「e-ラーニングシステム」は、「ポートフォリオシステム」の実践記録に書くことのできる一つの学習手段として提供する位置づけにあります。システムで配信するコンテンツについては、その内容に該当するPSを表示するほか、使い勝手がよく、日常業務にも役立つ内容を製作、提供していく予定です。

※出典

FIP STATEMENT OF PROFESSIONAL STANDARDS CONTINUING PROFESSIONAL DEVELOPMENT

「JPALS」ご利用ガイド

◎4月の運用開始時には、一部内容が変更される場合もございます。

概要

1. システム利用開始日

平成24年4月1日（日）

2. 対象

薬剤師国家資格を有する方および薬学生。
(薬学生はポートフォリオへの記録, e-ラーニングのご利用のみ可能。クリニカルラダーの利用不可)

3. システム利用料金, 認定料 (予定)

システム上で課金いたします。決済方法は、クレジットカード決済またはコンビニ決済となります。

1) ポートフォリオシステム

日本薬剤師会会員…無料

上記会員でない薬剤師の方…10,000円(税別)／年

上記会員でない薬学生の方…2,000円(税別)／年

2) e-ラーニングシステム

日本薬剤師会会員…当面無料

上記会員でない薬剤師の方・薬学生の方

…コンテンツごとの課金

3) クリニカルラダーレベル5認定料

(過渡的認定の場合も同様)

日本薬剤師会会員…5,000円(税別)／回

上記会員でない薬剤師の方…20,000円(税別)／回

4. ご利用までの流れ

システムURLへのアクセス⇒新規ユーザ登録⇒ログインIDの交付⇒ID, パスワードを使ってログイン

5. ポートフォリオシステムのご利用の流れ

プレチェック

プロフェッショナルスタンダード(以下PS)の全項目について、「学習した」または「学習していない」のチェックをすると、トップ画面のレーダーチャートに反映され、ご自身の学習状況が把握できます。



学習計画, 実践

学習していないPSや、日常業務からヒントを得た内容などから学習計画を立てて入力します。入力した内容に沿って学習を実践します。



実践記録

計画に対する学習実践の内容(研修形態, 学習

日, 学習内容, 成果, 今後の課題等)を記録します。本会へのご提出分(6本以上)と、ご自身用に保存しておく分を分けて登録できます。



PSチェック

「学習していない」のチェックが入っているPSについては、実践後に「学習した」のチェックを入れて登録するとレーダーチャートに反映され、PS学習状況で学習状況の再確認ができます。

6. クリニカルラダーの仕組み

(1月号11頁の「クリニカルラダーイメージ」参照)

1) ポートフォリオの提出

1年間のポートフォリオの提出数が6本以上であることを基本とします。毎年3月に、年間6本以上のポートフォリオを本会に提出したことを条件に、各レベルへの昇格候補者をシステム上で自動抽出します。

2) Webテストの受験

各レベルへの昇格候補者は、Webテストを受験する資格が得られます。Webテストは、年1回、3月中旬～4月中旬に実施し、期間中、何度でも受験可能です。テスト問題は、各レベルに対応したPSの範囲の中から出題されます。合格した方は、各レベルに昇格します。

3) 審査会によるポートフォリオの内容審査

レベル4からレベル5への昇格時のみ、Webテストの他に、本会の審査会による、ポートフォリオの内容審査があります。合格すると、レベル5に昇格します。

4) 認定証の発行

レベル5のみ、本会会長名の認定証を発行、郵送いたします。簡易版(PDF)はシステム上でダウンロードが可能です。

5) 過渡的認定

期間限定(平成24年4月1日～25年3月31日)で、「薬剤師免許登録時より15年以上(平成24年3月31日現在)の方」(その間の実務経験, 内容は問いません)または「薬剤師認定制度認証機構の認証した生涯学習制度の実施母体(G01～15, P01, P02)の認定を取得されている方」を、過渡的にクリニカルラダーレベル5に認定する「過渡的認定」の申請をシステム上で受け付けいたします。すでに自己研鑽を十分に積み、後輩薬剤師を育てる

指導者レベルの方を過渡的に認定する特別の措置です。実務経験がなく、ご自身でその資格がないと判断される場合は、レベル1からスタートしてください。認定されますと、レベル1から上がって来られる方と同様の規則に従って生涯学習をしていただくことが条件となります。

7. e-ラーニングシステムのご利用の流れ

ポートフォリオシステムより、ご利用のお申し込みが可能です。コンテンツ一覧から、視聴したいコンテンツを選択し、視聴後、理解度確認テストを受けます。理解度確認テストの合格をもって「修了」となります。

e-ラーニングで学習した内容は、是非、ポートフォリオに記録し、該当するPSがあればチェックして下さい。

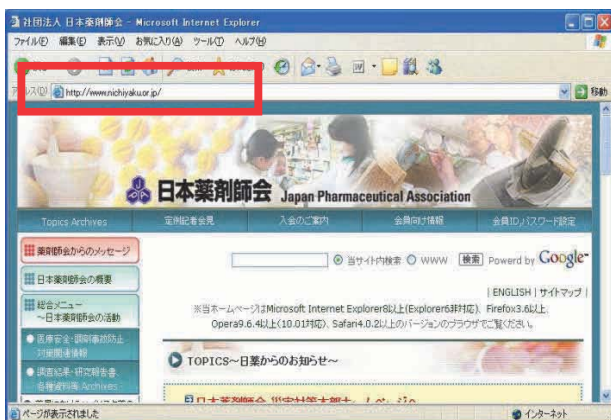
ポートフォリオシステム 利用マニュアル(主要画面の説明)

1. システムの初回利用登録

1) システムURLへのアクセス

ブラウザのアドレスバーに、以下のシステムURLを入力してアクセスします。

<https://www.jpals.jp/> (日本薬剤師会ホームページのトップページに「生涯学習支援システム」のバナーを設置しますので、そこからもアクセス可能となります。)



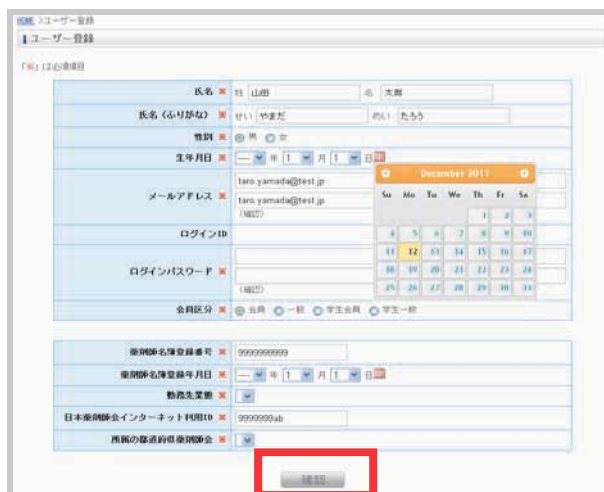
2) 新規ユーザ登録 (仮登録⇒本登録までの流れ)

ログイン画面で、「新規登録」ボタンをクリックすると「利用規約」が表示されますので、読んだ後に、「利用規約に同意する」にチェックを入れて「同意してユーザ登録を行う」のボタンをクリックします。



新規ユーザ登録画面が開いたら、氏名、生年月日、メールアドレス、ログインパスワード、薬剤

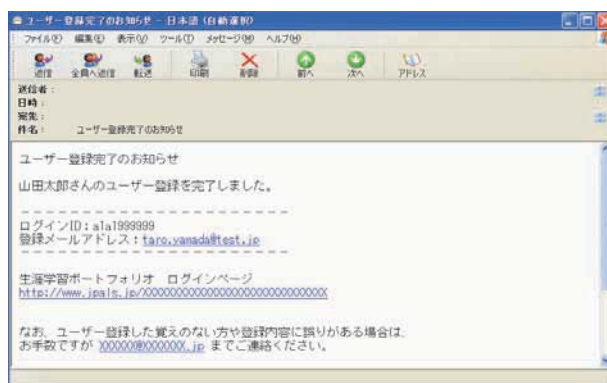
師名簿登録番号、日本薬剤師会インターネット利用ID、ご所属の都道府県薬剤師会などの利用者情報を入力します。入力が終わったら、画面下部の「確認」ボタンをクリックします。



次に、確認画面が表示された後、「送信」ボタンをクリックすると、仮登録完了のメッセージが表示され、「仮登録完了メール」が、ユーザ登録時に入力したメールアドレスへ送信されます。受信したメールを開き、登録を完了させるためのURLをクリックします(48時間以内に行ってください)。「ユーザ登録が完了しました」の画面が表示されれば本登録の完了です。



本登録完了後、生涯学習ポートフォリオシステムで使用するログインID(英数10桁、システムで自動生成)が記載されたメールが届きます。



2. ポートフォリオシステムの利用方法

1) ログイン

<https://www.jpals.jp/>にアクセスし、ログインページを開きます。ユーザ本登録完了メールに記載されたログインIDと、新規ユーザ登録時に登録したパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。



ログインが成功すると、トップ画面【図1】が表示されます。トップ画面の構成は以下の通りです。

①ユーザ情報

ユーザ名、前回ログイン日時、ご自身のCLレベルが表示されます。CLレベル5の方のみ、認定証をダウンロードできるリンクが表示されます。

②サービス一覧

本システムのサブメニューが表示されます。

③システムからのメッセージ

Webテスト受験資格通知、CLレベル5の認定手続通知、CLレベル昇格または降格メッセージなどが表示されます。

④日本薬剤師会からのお知らせ

本会、都道府県薬剤師会からのお知らせが表示されます。

⑤あなたのプロフェッショナルスタンダード

ご自身のPS学習達成度が、レーダーチャートで表示されます。ご自身と他のユーザとの比較対象としては「全国平均」、「所属地域別平均」、「年代別平均」の3種類があり、さらにその平均の範囲を「全体」と「同レベル（ご自身と同レベルの方）」の2種類毎に確認できます。また、利用開始から1年後には、「1年前の自分」のPS達成状況との比較も表示できます。

⑥ポートフォリオメニュー

ポートフォリオメニュー（計画、実践記録、PS学習状況などのボタン）が表示されます。トップ画面以外の画面では、サービス一覧の上部に表示されます。

⑦計画達成状況

計画を立て、実践した学習内容についての達成状況が表示されます。

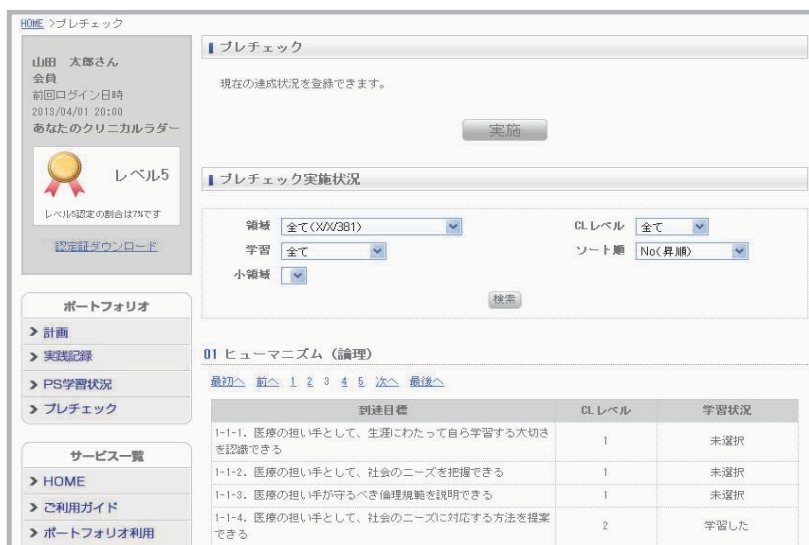


図1 ポートフォリオ トップ画面

2) プレチェック

ポートフォリオメニューの「プレチェック」をクリックすると、プレチェックの実施状況を検索表示できる画面が表示されます。「領域」、「CLレベル」、「学習」などの項目をドロップダウンリス

トから選択し「検索」ボタンをクリックすると、PS項目を絞り込むことができます。「実施」ボタンをクリックすると、プレチェックの入力画面が表示されます。



プレチェック入力画面【図2】で、達成状況の「学習した」「学習していない」をチェック後、「確認」ボタンをクリックします。確認画面で「更新」ボタンをクリックすると、登録完了です。

※全てのPS項目に「学習した」「学習していない」のチェックを行った時点でプレチェックは完了し、それ以降は変更不可、参照のみとなります。



図2 プレチェック画面

3) 学習計画

ポートフォリオメニューの「計画」をクリックすると、計画一覧を検索表示できる画面が表示されます。新規登録する場合は、「新規作成」をク

リックすると、計画登録画面【図3】が表示されますので、計画を入力し、「確認」ボタンをクリックします。確認画面で「この内容で登録する」をクリックすると登録完了です。



図3 計画登録画面

4) 実践記録

ポートフォリオメニューの「実践記録」をクリックすると、実践記録のトップページが表示されます。表示形式は、実践記録の一覧（形式別）と（時系列）があり、「研修形式」や「学習期間」などの内容をドロップダウンリストから選択し、「検索」ボタンをクリックすると、既に記録した実践記録を絞り込むことができます。

これまで登録した実践記録の閲覧は、実践記録トップページの「タイトル」の部分をクリックすると詳細表示が開きます。本会へ提出した実践記録、および未提出の実践記録は、実践記録一覧から選択でき、編集が可能です。

新規に登録する場合は「実践登録」をクリックすると、実践記録画面【図4】が表示されます。



「実践記録」入力画面【図4】では、まず、研修形式（「研修会」「セミナー」など）をドロップダウンリストから選択します。研修内容（演題・演者など）、新たに学んだこと、経験したこと、感じたことを入力します。「※」マークのある項目は入力必須項目です。

研修形式で「研修会」を選択した場合、都道府県薬剤師会が開催する研修会で、本システム用の研修会コードがあれば、「研修会コード」の「利用する」を選択し、コード番号を入力して「研修会検索」ボタンをクリックすると、「研修会名」、「学習時間」、「受講年月日」、「場所」、「研修会主催者」、「研修内容（演題・演者など）」が自動的に入力されます。

また、エディタ機能があるテキストボックスの箇所は、文字の太字や下線や色などの変更が可能です。（エディタ機能はPC版のみ利用できます。）

図4 実践記録画面

各項目内容を入力後、「次へ」ボタンをクリックすると、実践記録PS登録画面【図5】が表示されます。「領域」「CLレベル」「学習状況」などの内容をドロップダウンリストから選択し、「検索」ボタンをクリックすると、PS項目を絞り込むことができます。「到達目標」の目標内容にあった学習が出来たら、「学習した」にチェックを入れて「次へ」のボタンをクリックします。確認画面で「保存」ボタンをクリックすると登録完了です。

【図4】【図5】それぞれの画面の下にある「保存」ボタンをクリックすると、作成途中のデータを一時保存することも可能です。

さらに、実践記録PS登録画面【図5】で「次へ」ボタンをクリックすると、「実践記録確認」の画面【図6】が表示されます。内容の確認を終えた後は、ご自身用に保存するか、本会に提出するかが選択できます。

到達目標	到達レベル	学習状況	達成年月日
1-1-1. 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる	1	<input type="checkbox"/>	2011/06/01
1-1-2. 医療の担い手として、社会のニーズを把握できる	2	<input type="checkbox"/>	-
1-1-3. 医療の担い手が自ら学ぶ環境を創出できる	3	<input type="checkbox"/>	-
1-1-4. 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を把握できる	3	<input type="checkbox"/>	-
1-1-5. 医療現場の歴史・文化・倫理・法規・セーフティの関与・倫理・倫理を認識できる	1	<input type="checkbox"/>	2011/06/01
1-1-6. 医療にかかわる倫理が認識・理解できる	1	<input type="checkbox"/>	-
1-1-7. 医療にかかわる倫理が認識・理解と実践とを認識できる	2	<input type="checkbox"/>	-
1-1-8. 薬事法・薬師法を認識できる	1	<input type="checkbox"/>	-
1-1-9. 薬事法・薬師法について認識できる	1	<input type="checkbox"/>	-
1-1-10. 薬事法にまつわる倫理が認識・理解について認識できる	2	<input type="checkbox"/>	-
1-1-11. 医療法規制の認識・理解できる	1	<input type="checkbox"/>	-
1-1-12. 薬事法・薬師法について認識できる	1	<input type="checkbox"/>	-
1-1-13. 人の発生、成長、知能、死の過程を考察し、認識する	2	<input type="checkbox"/>	-
1-1-14. 律令に規定する業務を考察し、認識する	2	<input type="checkbox"/>	-
1-1-15. 自らの経験を通して、医療の現場で医療のなかのなかについて認識する	3	<input type="checkbox"/>	-
1-1-16. 研修内容に実践的知識の習得が期待できる	3	<input type="checkbox"/>	-
1-1-17. 薬にかかわる倫理が認識・理解・実践、薬師法、薬師法について認識できる	3	<input type="checkbox"/>	-
1-1-18. 手帳、生薬、薬典、GMPについて認識できる	3	<input type="checkbox"/>	-
1-1-19. 薬にかかわる倫理が認識・理解・実践、薬師法、薬師法、出生前診断について認識・理解できる	4	<input type="checkbox"/>	-
1-1-20. 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる	4	<input type="checkbox"/>	-

図5 実践記録 PS登録画面

【ご自身用に保存の場合】

「日本薬剤師会に提出する」にチェックを入れないで「保存」ボタンをクリック。

⇒日本薬剤師会に提出しない状態で登録され、CLレベル昇格条件の実践記録提出本数に含まれません。

【日本薬剤師会へ提出の場合】

「日本薬剤師会に提出する」にチェックを入れて「保存・送信」ボタンをクリック。

⇒日本薬剤師会に提出され、CLレベル昇格条件の実践記録提出本数に含まれます。



図6 実践記録 確認画面

5) PS学習状況

ご自身のPS学習の状況が確認できます。ポートフォリオメニューの「PS学習状況」をクリックすると、【図7】が表示されます。現在までに学習したPS項目には「●」のチェックが入り、最終学習日には最後に学習した日付が入ります。



図7 PS学習状況画面

6) ログアウト

システムの利用が終了したら、サービス一覧の「ログアウト」をクリックしてログアウトします。開いているブラウザをすべて閉じることで、ログアウトと同様な状態となります。

3. ポートフォリオシステムの推奨動作環境

クライアント	対応ブラウザ	検証端末
Windows	Internet Explorer 7/8/9	Windows XP SP3/IE7, IE8 Windows7 home Premium 32bit SP1/IE9
Mac	Safari 5.x	MacOS X 10.6.8/Safari5.1
Android	OS標準ブラウザ	Android 2.1/2.2/2.3 (GalaxyS)
iPad	OS標準ブラウザ	iOS4
iPhone	OS標準ブラウザ	iOS5

e-ラーニングシステム 利用マニュアル(主要画面の説明)

1. e-ラーニングへのアクセス

サービス一覧から「e-ラーニング受講」をクリックすると、e-ラーニング一覧画面【図8】が表示されます。コンテンツを受講するには、事前に申し込みを行う必要があります。



図8 e-ラーニング一覧画面

e-ラーニング一覧画面から「詳細」をクリックすると、コンテンツの学習内容と学習履歴を確認する画面が表示され、「利用申込する」ボタンをクリックすると、コンテンツの申し込みが完了します。

なお、コンテンツの受講開始は、申し込んだ翌日から可能になります。



図9 e-ラーニング詳細画面

2. e-ラーニングの受講

e-ラーニング一覧画面で、コース名に「(申込済)」が表示されていることを確認し、「詳細」をクリックします。e-ラーニング詳細画面【図9】が表示されますので、「受講する」をクリックすると、申し込んだコンテンツを受講することができます。コンテンツの受講履歴は、詳細画面に表示されますが、受講履歴の反映は翌日となります。

3. e-ラーニングシステムの推奨動作環境

クライアント	対応ブラウザ	検証端末
Windows	Internet Explorer 7/8/9	Windows XP SP3 / IE7, IE8 Windows7 home Premium 32bit SP1 / IE9

「クリニカルラダー」(CL) 解説

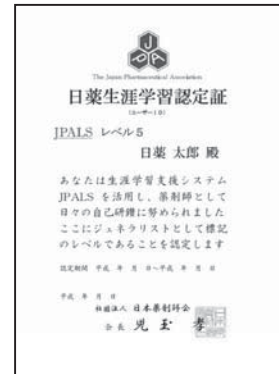
CL は、会員・非会員に関係なく薬剤師であればご利用可能です。

CL レベルの表示、認定証の発行

ログイン後の画面では、ログインユーザーの CL レベルを表示します。

レベル 5 では認定証が発行、郵送されます(申込みが必要です)。

レベル 5 認定証の簡易版は、システム上でダウンロードが可能です。



簡易版

CL レベルの有効期間

CL レベル	各CLレベルの有効期間	同レベルで更新した場合の有効期間 (ポートフォリオの提出本数が規定に達している場合は、同レベルの有効期間を更新する)
1	登録年度の翌年度末	4月から2年間
2	レベルアップの4月から2年間	4月から2年間
3	レベルアップの4月から2年間	4月から2年間
4	レベルアップの4月から2年間	4月から2年間
5	レベルアップの場合、4月から3年間 (過渡的認定の場合、認定年度の翌々年度末まで)	4月から3年間

CL レベル 5 については、更新時には再度、認定料を申し受けます。

CL レベルの昇格

◎ CL レベル 1→2、2→3、3→4 の場合

認定条件 1 . . . ポートフォリオの年間提出本数が 6 本以上

◆ポートフォリオ年間提出本数の集計対象期間は、年度初め(4月1日)～年度末(3月31日)までの1年間とします。

◆ポートフォリオの本数は、実践記録の登録数とします。1つの計画に対して複数の実践記録があった場合も、その登録数をポートフォリオの本数とします。

認定条件 2 . . . web テスト

◆web テストを受験するには、ご自身の CL レベルに相当する PS のプレチェックが登録済み※であることが条件となっており、その条件を満たしているユーザーに対しては、web テストの受験が可能である旨、システム上でメッセージが表示されます。

◆web テストは3月16日～4月15日の期間に実施されます。期間中であれば、何度でも受験可能です。

※PSのプレチェックの「学習した」「学習していない」「未実施」のうち、「学習した」「学習していない」のいずれかを選択、登録していることを指します。

◎ CL レベル 4→5 への場合

前述の認定条件 1. 2. をクリア後、

認定条件 3 . . . ポートフォリオ審査に合格

日本薬剤師会による、レベル 5 昇格対象ユーザーの審査を実施します。

ポートフォリオの内容、PS 達成状況に極端な偏りがないかなどを確認します。

CL レベルの降格

◎ CL レベル 2→1、3→2、4→3 の場合

降格条件 . . . 過去 2 年のポートフォリオの提出本数が 12 本未満

◆ポートフォリオ年間提出本数の集計対象期間は、前年度初め（4 月 1 日）～当年度末（3 月 31 日）までの 2 年間とします。

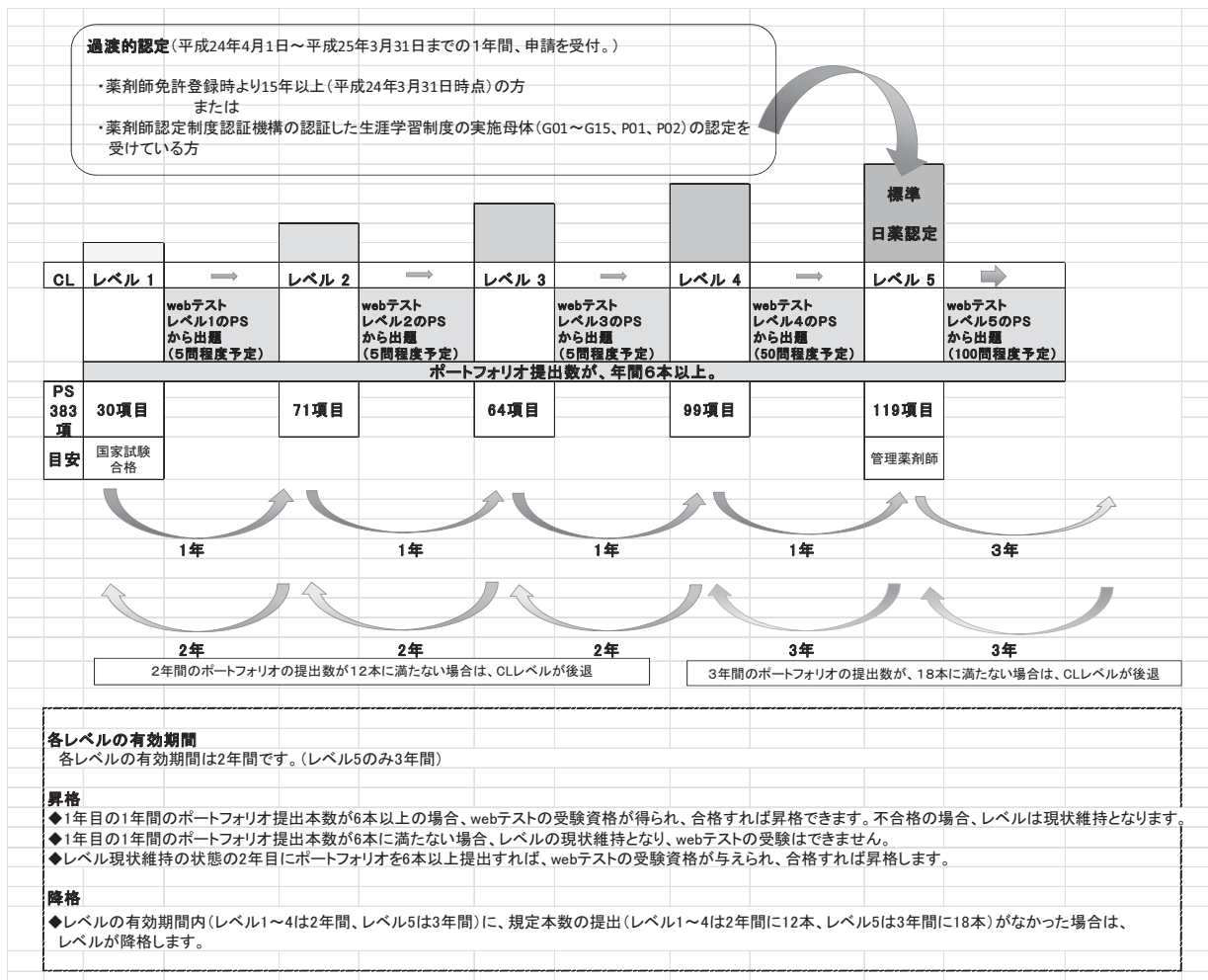
◆ユーザー登録後 2 年未満のユーザーに対しても適用されます。

◆ただし、当年度のポートフォリオの提出本数が 6 本以上の場合は、前年度の提出本数に関わりなく、降格認定されません。

◎ CL レベル 5→4

降格条件 . . . 過去 3 年のポートフォリオの提出本数が 18 本未満

ポートフォリオ年間提出本数の集計対象期間は、前々年度初め（4 月 1 日）～当年度末（3 月 31 日）までの 3 年間とします。



CL レベル 5→6 への昇格

CL 6 以上については検討中です。

スケジュール（全 CL レベル共通）

- 4 月 1 日～3 月 31 日・・・ポートフォリオ年間提出本数の集計対象期間
- 3 月 16 日～4 月 15 日・・・WEB テストの実施期間
- 4 月 1 日・・・年間提出本数、昇格・降格認定の確定日
- 4 月 1 日～6 月 30 日・・・審査（CL レベル 4→5）

過渡的認定

認定要件・・・以下の条件のいずれか 1 つを満たす方を過渡的認定対象者とします。

- ◆薬剤師免許取得後年数が 15 年以上（平成 24 年 3 月 31 日時点）の方
- ◆薬剤師認定制度認証機構の認証した生涯学習制度の実施母体（G01～G15、P01、P02）の認定を受けている方

◎申請期間・・・平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日（システム開始後、1 年間）

◎申請方法・・・システム上の過渡的認定申請フォームから申請可能です。

◎申請の際の入力必須項目

【免許取得後 15 年以上（平成 24 年 3 月 31 日時点）の要件を満たす場合】

薬剤師名簿登録年月日（ただし、ユーザー登録時に入力済みのためシステムで自動判断）

【認定薬剤師である場合】

認定薬剤師番号、認定プロバイダー名

◎認定料・・・CL レベル 5 の認定と同様です。

ポートフォリオの利用に際して

生涯学習委員会

「JPALS」に興味を持っていただき、この冊子を開いていただいた方の中には、「学習を記録するなんて、面倒になるなあ」、「どんなメリットがあるの」と思われているかもしれません。その思いから解き放たれるヒントになれば幸いです。

「本当に役立つ学習とは～「奇跡の教室」を読んで～」

「奇跡の教室」(伊藤氏貴著、小学館)は、灘校の国語の教師であった橋本武氏(通称エチ先生)のことを書いた本です。

灘校は、昭和43年に初めて東大合格者数のトップという私立高校としての快挙を成し遂げ、「なぜ灘校はそんなにも優秀になったのか?予備校みtainな授業をスパルタ的にやっているのではないか?」といういろいろと憶測をよびましたが、灘校の生徒が優秀になるのは、エチ先生の国語の授業と関連しています。

その授業は、教科書を一切使わずに、岩波文庫の中勘助著「銀の匙」1冊を3年間かけて読み通すというものでした。エチ先生は将来に渡って役に立つ授業は何かと考え、国語力が生きていく上での一番基本であり、国語力を身に付けるためには、優れた小説をじっくり読むことが大切だと考えました。しかしそこには、受験に役に立つという観点は全くありませんでした。授業は毎回エチ先生がプリントを配り、銀の匙を読むためのヒントを与え、生徒はそのプリントに自分の考えや意見を記録し、さらに疑問点は自分で調べて記入し、そのプリントを研究ノートとして綴っていきます。また、エチ先生の授業は本の内容から派生したさまざまな横道にそれた内容となり、国語の範囲だけではありませんでした。例えば、ねずみ算のことが出てくると、和算のことまで詳しく話し、明治時代の子供の遊びやお菓子のことまで調べることで、生徒たちは幅広く知識を吸収していきました。

1回の授業では1ページぐらいしか進まないこともありましたが、授業があまりにも遅く、そして受験に役に立ちそうもないということで、ある生徒が授業の進み方が遅いと先生に質問した時、エチ先生は、「スピードは関係ない。すぐに役に立つことはすぐ役に立たなくなる」と答えました。このようなエチ先生の授業を受けた生徒たちが続々と東大に合格し、教え子たちは異口同音にエチ先生の授業は、世の中に出て役に立ったと話していました。

ポートフォリオ

ポートフォリオ研究の第一人者である工学院大学講師小田克己氏は、その授業を以下のように評価しています。エチ先生の授業のやり方は、学習意欲と根気を育てるために90年代からアメリカの教育界で広まってきたポートフォリオの先取りです。自分の興味・関心があるものを一定期間にわたって観察し、ノートやメモした後、自分で軸を決めて整理し、まとめるというのがポートフォリオの方法論です。対象物への「気づき」の変化を通して、自分の成長にも気づく。「自分自身の文字で書いたもの、まとめたものでなければ身につかない」という考え方がこの方法の基本であります。

読解力向上プログラム

平成17年12月文部科学省が発表した読解力向上プログラムは、文章や資料から「情報を取り出す」ことに加え、「解釈、熟考・評価、論述すること」に重点がおかれました。読解力の定義は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」とあります。エチ先生の授業は、言葉の無限の広がりを楽しみつつ、総合学習的な教科にしばられない好奇心

の目線を養っていました。読解力をつける手軽な方法のヒントは次の通りです。

- 筆者の意見に「賛成」「反対」「納得」といったチェックをする。
- 「反対」の場合はその根拠や理由を書き込む。
- 「こうすればもっと良い」と自分の発想も書いておく
- わかったふりをせず、疑問をどんどん書き留める。
- できれば読後、同じ本を読んだ人と意見交換をする。
- 雑誌やインターネットなどの書評で参考になった意見も本に書き込む

JPALS ポートフォリオ

研修会に参加する態度は能動的ではありますが、実際の研修会で受講する学習は、受動的と考えられます。しかし、研修会で得たヒントを基に行う自己学習は、能動的であり真の実力がつくものです。そして、そこにポートフォリオへの記録を加えることが有効であると考えます。

JPALS ポートフォリオは、プロフェッショナルスタンダード (PS) を指標として CPD を実践し、クリニカルラダーのレベルアップを図ることができますが、主眼は PS に捉われずに、幅広い学習を記録していただくことに置いています。研修会やセミナーへの参加や自己学習をしたら、実践記録からスタートするのもお勧めの利用方法です。次のような手順で記録してみてください。

1. 「新たに学んだこと、経験したこと、感じたこと」

自分の学習ノートですので、思いっくまま自由に記入します。次の点をヒントにする
と書きやすくなるかもしれません。

- 演者の意見に「賛成」「反対」「納得」といったチェックをする。
- 「反対」の場合はその根拠や理由を書き込む。
- 「こうすればもっと良い」と自分の発想も書いておく
- わかったふりをせず、疑問点や不明な語句をどんどん書き留める。
- できれば参加者と意見交換をする。

2. 「学習内容を実践で活用出来るだろう例、学習によって実戦での効果があった例」

日々の業務と学習したことを照らし合わせ、活用の場面を予想してみます。しばらく経って、実際に学習の効果があった場合は、研修会のポートフォリオに追加記録を行います。

3. 「まだ学習すべき項目、学習目標をすべて達成出来なかった理由」

1. でわかったふりをせず、気付いた事をどんどん書き留めておけば、初めて聞いた医薬品、疾患、検査項目、知らなかったこと、疑問点等から今後の課題を確認することができます。

4. 評価：PS チェック

PS 検索を利用して、研修会や自己学習の内容が PS 到達目標で該当する項目があるかを確認し、項目があれば「学習した」にチェックを入れます。

5. 計画

3. で記入した課題から学習目標を設定し、学習方法を検討します。自己学習等によって疑問点を解消することで、真の実力がつくと考えます。

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード（PS） （23 年度版）

PS の更新内容について

平成 21 年 4 月に公表した「20 年度版 薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード」では各到達目標に難易度が表記されていましたが、JPALS 構築に伴うクリニカルラダー（CL）の設定により、難易度は廃止し、CL レベルを付与しました。

また、以下の 2 項目を追加し、383 項目となりました。

領域 2：医薬品の適正使用（安全性、経済性）

2-1-46 母集団薬物動態学の概念と応用について説明できる

2-1-47 母集団薬物動態パラメーターを用いて、投与量の妥当性を評価できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード (PS)
(23 年度版)

クリニカルラダーレベル別

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別 CL レベル1

領域-一般目標- 到達目標	到達目標(30項目)
1-1-1	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる
1-1-5	医療倫理の歴史(ヘルシキ宣言・ヒポクラテスの誓いなど)を概説できる
1-1-8	薬剤師倫理規定を概説できる
1-1-9	薬剤師綱領を概説できる
1-1-11	医療法第1条の2を概説できる
1-1-12	薬剤師法第1条について概説できる
1-2-1	「薬剤師の接遇マニュアル」を概説できる
1-2-3	「対面話法例示集」を概説できる
1-2-5	チームワークの重要性を例示して説明できる
2-1-1	様々な情報源とその特徴について説明できる
2-1-2	情報収集に必要な設備について説明できる
2-1-3	情報通信機器を利用した文献検索の手順を列挙できる
2-1-4	情報通信機器を利用して医薬品に関する最新情報を収集できる
2-1-6	当該医薬品の最新の添付文書およびインタビューフォームが収集できる
2-1-8	医療用医薬品と一般用医薬品の違いを説明できる
2-1-40	代表的な消毒薬を列挙できる
2-2-1	一般名に対応する後発医薬品について列挙できる
2-2-123	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子を列挙できる
2-2-126	薬物の胎児移行性について説明できる
2-2-130	薬物の主要排泄経路と排泄様式について説明できる
2-2-131	薬物の初回通過効果について説明できる
2-2-140	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
2-2-143	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
2-2-145	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
2-2-148	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる
3-1-1	セルフメディケーションの必要性を適切に説明できる
3-1-3	一般用医薬品の第一類、二類、三類について概説できる
4-1-2	「ヒヤリハット事例」を報告できる
5-1-6	麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法等を説明できる
5-1-8	個人情報保護法について説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別
CL レベル2

領域 一般目標 到達目標	到達目標 (71項目)
1-1-6	医療にかかわる倫理的問題を列挙できる
1-3-1	インフォームドコンセントの定義と必要性を説明できる
1-3-2	ファーマシューティカルケアについて説明できる
1-3-6	不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議できる
2-1-9	一般用医薬品に配合されている薬物を調べ、その薬効を説明できる
2-1-11	医療情報の信頼性やエビデンスレベルについて説明できる
2-1-14	医薬品の臨床報告(和文)の内容を簡潔に説明できる
2-1-16	学術および医学専門用語の意味を調べて説明できる
2-2-3	心臓および血管系における代表的な疾患を列挙できる
2-2-4	不整脈の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-7	心不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-10	虚血性心疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-13	高血圧の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-16	消化器系(胃・十二指腸、小腸・大腸、肝臓・胆道、膵臓)における代表的な疾患を列挙できる
2-2-17	消化性潰瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-20	炎症性腸疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-23	腸炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-26	肝炎・肝硬変の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-29	膵炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-32	腎臓および尿路における代表的な疾患を列挙できる
2-2-33	腎不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-36	ネフローゼの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-39	生殖器に関する代表的な疾患を列挙できる
2-2-40	肺および気道における代表的な疾患を列挙できる
2-2-41	喘息および肺気腫の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-44	ホルモン産生臓器にかかる代表的な疾患を列挙できる
2-2-45	脳下垂体に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-47	甲状腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-49	性腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-51	副腎に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-53	糖尿病とその合併症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-56	脂質代謝異常症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-59	高尿酸血症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-62	神経および筋に関する代表的な疾患を列挙できる
2-2-63	神経および筋に関する代表的な治療薬を列挙できる
2-2-65	脳血管疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-67	てんかんの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-70	代表的な精神疾患を列挙できる
2-2-71	統合失調症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-74	うつ病、躁うつ病の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-77	耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-79	皮膚疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-81	眼に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-83	骨、関節に関する代表的な疾患を列挙できる
2-2-84	骨粗鬆症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-87	関節リウマチの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別
CL レベル2

領域 一般目標 到達目標	到達目標 (71項目)
2-2-90	代表的なアレルギーおよび免疫に関する疾患を列挙できる
2-2-91	アナフィラキシー・ショックの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-94	後天性免疫不全症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-97	移植に関連して使用される薬物について列挙できる
2-2-98	癌性疼痛に対して使用される薬物について列挙できる
2-2-104	臓器別悪性腫瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる
2-2-107	代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる
2-2-109	栄養障害の病態生理と代表的な治療(対応)法を列挙できる
2-2-117	陰陽五行説などの漢方の基本理論を簡単に説明できる
2-2-150	腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる
2-2-152	肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる
2-2-154	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる
2-3-29	代表的な医薬品の適用症例を列挙できる
2-3-30	代表的な漢方薬・漢方製剤の用法・用量を列挙できる
2-3-31	不適切な処方について、その理由を説明できる
3-1-5	飲酒と喫煙が健康に及ぼす影響について説明できる
3-2-1	麻薬や覚醒剤が人体に及ぼす影響について説明できる
3-2-2	学校薬剤師の役割と活動を説明できる
3-2-4	訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務について説明できる
3-4-1	心肺停止状態に対応するための基本的な知識を概説できる
4-1-1	医療過誤(事故)のレベルの分類が説明できる
4-2-1	医療過誤(事故)発見時に適切に報告できる
4-4-1	医療安全管理指針と業務手順書を理解し、遵守して業務を遂行できる
5-1-1	薬事法の重要な項目を列挙できる
5-1-3	薬剤師法の重要な項目を列挙できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

CL レベル3

領域—一般目標— 到達目標	到達目標 (64項目)
1-1-2	医療の担い手として、社会のニーズを把握できる
1-1-3	医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる
1-2-2	「薬剤師の接遇マニュアル」に基づいて行動できる
1-2-10	言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる
1-3-4	患者の心理状態を把握し、配慮できる
1-3-8	ホスピスなどの施設の意義について説明できる
1-3-11	疼痛緩和について説明できる
1-4-1	病名を宣告された患者や家族の心理状態について配慮できる
1-4-3	患者やその家族の話を傾聴することができる
2-1-28	医薬品の市販後(市販直後)調査の手順を説明できる
2-1-29	患者の求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる
2-1-30	医療スタッフの求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる
2-1-36	保険診療における医薬品の保険適用について説明できる
2-1-37	添付文書の併用注意に関する情報の取捨選択が、その重要度に応じて行える
2-1-41	代表的な消毒薬の使用法を説明できる
2-1-43	病原体の主な感染源と感染経路を列挙できる
2-2-2	後発医薬品の選択を明確な理由に基づいて行える
2-2-78	耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-80	皮膚疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-82	眼に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-85	骨粗鬆症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-88	関節リウマチの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-99	主な感染症の病態と原因を説明できる
2-2-100	代表的な抗菌薬を体系的に分類し、抗菌スペクトルと作用機序を説明できる
2-2-102	代表的な抗真菌薬の作用機序を説明できる
2-2-103	代表的な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる
2-2-120	薬物の用量と作用の関係について説明できる
2-2-121	薬物の体内動態と薬効の関係について説明できる
2-2-122	薬物の代表的な投与経路について、それぞれの特徴を説明できる
2-2-137	TDMの意義について説明できる
2-2-141	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
2-2-144	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
2-2-146	妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
2-2-149	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる
2-3-1	患者とのコミュニケーションを通して、不適切な服薬状況を見出せる
2-3-6	診療記録や看護記録、検査所見などから、薬効や副作用、相互作用に関する情報を収集できる
2-3-7	医療スタッフが日常使用している専門用語を正確に説明できる
2-3-25	抗菌薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-27	代表的な外用薬に関する副作用とその兆候を説明できる
3-1-2	セルフメディケーションのための健康食品を適切に提案できる
3-1-4	セルフメディケーションのための一般用医薬品を適切に提案できる
3-1-7	食生活が健康に及ぼす影響を説明できる
3-1-8	食育の必要性を説明できる
3-1-9	健康食品による有害作用を説明できる
3-1-10	食品及び健康食品と医薬品の相互作用を説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

CL レベル3

領域—一般目標— 到達目標	到達目標 (64項目)
3-1-13	顧客に対してわかりやすい言葉、表現を用い説明できる
3-2-6	ドーピングとその有害作用について説明できる
3-2-7	地域におけるスポーツファーマシストの役割と活動を説明できる
3-2-10	話題性のある薬物についてわかりやすく説明できる
3-2-11	日常生活における衛生管理の概念を説明できる
3-2-12	日用品に含まれる化学物質の危険性を説明できる
4-1-3	医療安全に関する重要な情報を収集できる
4-1-4	医薬品がもつ危険性について、説明できる
4-3-2	医療過誤(事故)の発見時に必要部署に報告できる
4-4-2	ヒューマンエラーおよびメカニカルエラーが不可避であることを認識し、それぞれの危険性について列挙できる
4-4-4	「薬局・薬剤師のための調剤事故防止マニュアル」を理解し、説明できる
5-1-2	薬事法の重要な項目を説明できる
5-1-4	薬剤師法の重要な項目を説明できる
5-1-5	薬剤師に関連する法令の構成を説明できる
5-1-7	麻薬及び向精神薬取締法覚せい剤取締法等に基づき、適切な取り扱い・管理が実践できる
5-1-9	薬剤師の基本的責任を逸脱した場合の罰則法律を説明できる
5-1-10	医療法の重要項目を列挙できる
5-1-16	保険医療機関及び保険医療養担当規則を説明できる
5-1-17	保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則を説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別 CL レベル4

領域 一般目標 到達目標	到達目標 (99項目)
1-1-7	医療に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる
1-1-10	薬剤師に係わる倫理的問題について討議できる
1-1-13	人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議できる
1-1-14	環境に配慮する意義を考察し、討議できる
1-2-4	「対面話法例示集」に基づいて行動できる
1-2-6	薬剤師の職能を認識し、必要に応じて他職種に助言などを求めるなどの処置ができる
1-2-7	医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携の重要性を討議できる
1-3-3	ファーマシューティカルケアに基づいて行動できる
1-3-7	ターミナルケアにおける薬剤師の役割について説明できる
1-3-13	末期患者の精神的ケアについて説明できる
1-3-15	認知症のケアについて説明できる
1-3-17	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる
1-3-21	臨床心理学の必要性について説明できる
1-3-22	交流分析の必要性について説明できる
1-4-2	簡易的なカウンセリングスキルについて説明できる
2-1-7	当該医薬品および類縁化合物に関する臨床報告を収集できる
2-1-18	基本的な統計学を理解し、平均値と標準偏差の意味を説明できる
2-1-34	無菌操作と無菌製剤について説明できる
2-1-38	院内感染の標準的予防策(スタンダードプリコーション)を説明できる
2-1-39	院内外および地域における感染事例の情報を医療スタッフに適切に説明できる
2-1-44	院内感染の感染経路別対策について説明できる
2-1-46	母集団薬物動態学の概念と応用について説明できる
2-2-5	不整脈の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-8	心不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-11	虚血性心疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-14	高血圧の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-18	消化性潰瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-21	炎症性腸疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-24	腸炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-27	肝炎・肝硬変の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-30	膵炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-34	腎不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-37	ネフローゼの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-42	喘息および肺気腫の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-46	脳下垂体に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-48	甲状腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-50	性腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-52	副腎に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-54	糖尿病とその合併症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-57	脂質代謝異常症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-60	高尿酸血症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-64	神経および筋に関する代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-66	脳血管疾患の代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-68	てんかんの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-72	統合失調症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-75	うつ病、躁うつ病の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別

CL レベル4

領域 一般目標 到達目標	到達目標 (99項目)
2-2-92	アナフィラキシー・ショックの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-95	後天性免疫不全症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-101	薬剤耐性獲得の仕組みについて説明できる
2-2-105	臓器別悪性腫瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる
2-2-110	経腸栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる
2-2-111	経腸栄養療法の管理と合併症について説明できる
2-2-112	静脈栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる
2-2-113	静脈栄養療法の管理と合併症について説明できる
2-2-114	在宅栄養療法について説明できる
2-2-115	褥瘡の治療法について説明できる
2-2-118	代表的な漢方方剤の構成とその作用を説明できる
2-2-119	EBMの基本概念と有用性について説明できる
2-2-124	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子の作用機序について説明できる
2-2-125	薬物の脳移行性と脳血液関門の特徴を説明できる
2-2-127	薬物と血漿タンパク質との結合と薬効の関係について説明できる
2-2-128	薬物と血漿タンパク質との結合と薬物の組織移行性の関係について説明できる
2-2-129	薬物の代謝様式と主要な代謝酵素について説明できる
2-2-133	薬物の肝クリアランスについて説明できる
2-2-134	薬物の腎クリアランスについて説明できる
2-2-135	薬物の血中濃度推移と全身クリアランス、分布容積について説明できる
2-2-136	反復投与時の薬物血中濃度推移について説明できる
2-2-139	薬物の体内動態と作用発現に影響を与える遺伝的素因について説明できる
2-2-151	腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる
2-2-153	肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる
2-2-155	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる
2-3-2	患者とのコミュニケーションを通して、栄養障害の兆候を見出せる
2-3-3	患者とのコミュニケーションを通して、不適切な薬理効果を見出せる
2-3-4	患者とのコミュニケーションを通して、副作用発現の兆候を見出せる
2-3-5	患者とのコミュニケーションを通して、薬物相互作用の兆候を見出せる
2-3-8	医療スタッフとの情報交換を通じ、重篤な副作用の初期症状を見出せる
2-3-10	医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発現の可能性を見出せる
2-3-11	医療スタッフとの情報交換を通じ、副作用を見出せる
2-3-13	医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用の可能性を見出せる
2-3-14	医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用を見出せる
2-3-16	心臓・血管系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-17	消化器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-18	腎臓・尿路系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-19	精神神経疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-20	代謝性疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-21	産科婦人科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-22	小児科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-23	老年科で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-24	外科・整形形成外科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-26	抗悪性腫瘍薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる
2-3-28	代表的な漢方薬・漢方製剤に関する副作用とその兆候を説明できる
2-3-33	相互作用および副作用の回避策を列挙できる
2-3-36	医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用に関する報告が行える
2-3-38	副作用および薬物相互作用の疑いのある事例について、公的機関への報告が行える
3-4-2	心肺停止状態を判断でき、自動体外式除細動器を適切に取り扱うことができる
3-4-3	災害時における薬剤師の役割について説明できる
4-1-5	過去に起こった医療過誤(事故)事例について、内容を説明できる
4-3-1	医療過誤(事故)発生時の対応の流れについて説明できる
5-1-20	調剤過誤発生時の法的責任について説明できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別 CL レベル5

領域 一般目標 到達目標	到達目標 (119項目)
1-1-4	医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案できる
1-1-15	自らの体験を通して、生命の尊さと医療のかかわりについて討議できる
1-1-16	救命救急に薬剤師が関わる意義を説明できる
1-1-17	死にかかわる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)について討議できる
1-1-18	予防、治療、延命、QOLについて説明できる
1-1-19	誕生にかかわる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる
1-1-20	医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植、再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる
1-1-21	医療にかかわる諸問題から、自ら課題を見だし、それを解決する能力を醸成する
1-2-8	医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携を実践できる
1-2-9	他職種と連携を取り、協調的態度で役割を実践できる
1-2-11	相手の立場、文化、習慣が異なることを理解し、コミュニケーションのあり方に配慮できる
1-3-5	相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応できる
1-3-9	ターミナルケアにおける薬剤師の役割を実践できる
1-3-10	ホスピスなどの施設で薬剤師の役割を実践できる
1-3-12	疼痛緩和ケアについて実践できる
1-3-14	末期患者の精神的ケアについて実践できる
1-3-16	認知症のケアについて実践できる
1-3-18	病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる
1-3-19	患者および家族の心理状態を把握し、配慮できる
1-3-20	患者やその家族のもつ価値観が多様であることを認識し、総合的に実践できる
1-3-23	家族力学について理解し、実践できる
1-4-4	患者やその家族が持つ精神的な問題点を把握することができる
1-4-5	患者やその家族が、直面する問題に前向きに対処できるようサポートできる
2-1-5	情報通信機器を活用した医療および医薬品情報を適切に収集できる
2-1-10	当該医薬品の費用対治療効果比を調べて説明できる
2-1-12	医療情報の信頼性やエビデンスレベルを検証できる
2-1-13	質の高い医療情報に基づいて適切な薬剤を提案できる
2-1-15	医薬品の臨床報告(英文)の内容を簡潔に説明できる
2-1-17	2つの変量の相関関係を定量的に説明できる
2-1-19	統計手法を用いる2つの平均値の有意差検定について詳しく説明できる
2-1-20	分散分析と多重比較について詳しく説明できる
2-1-21	正規分布を前提としない検定法について説明できる
2-1-22	添付文書やインタビューフォームの記載事項を、種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる
2-1-23	MRの提供情報を種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる
2-1-24	医薬品情報に対し、目的に応じた適切な取捨選択が行える
2-1-25	複数の学術資料を比較し、医薬品情報の信頼性や対立情報の有無を検証できる
2-1-26	体系的に収集・整理した医薬品情報の提供を、他の医療スタッフに対し適切に行える
2-1-27	体系的に収集・整理した医薬品情報を勉強会や学術集会で説明できる
2-1-31	直面する医薬品の調剤学的、製剤学的問題点について改善方法を提案できる
2-1-32	医薬品の調剤学的、製剤学的問題点の解決法を提案できる
2-1-33	直面する医薬品の生物薬学的、薬理学的問題点について改善方法を提案できる
2-1-35	無菌操作と無菌製剤を適切に行える
2-1-42	消毒対象に応じた適切な消毒薬の選択と消毒方法を提案できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別
CL レベル5

領域 一般目標 到達目標	到達目標 (119項目)
2-1-45	未知(未経験)の症例に対し、知識と経験と最新の医薬品情報に基づいて、具体的方策を提案できる
2-1-47	母集団薬物動態パラメーターを用いて、投与量の妥当性を評価できる
2-2-6	不整脈に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-9	心不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-12	虚血性心疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-15	高血圧に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-19	消化性潰瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-22	炎症性腸疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-25	腸炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-28	肝炎・肝硬変に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-31	膝炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-35	腎不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-38	ネフローゼに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-43	喘息に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-55	糖尿病とその合併症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-58	脂質代謝異常症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-61	高尿酸血症と痛風に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-69	てんかんに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-73	統合失調症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-76	うつ病、躁うつ病に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-86	骨粗鬆症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-89	関節リウマチに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-93	アナフィラキシー・ショックに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-96	後天性免疫不全症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-106	臓器別悪性腫瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる
2-2-108	代表的な抗悪性腫瘍薬の作用機序と臨床応用を詳しく説明できる
2-2-116	褥瘡の程度に応じて治療法を提案できる
2-2-132	薬物の初回通過効果の変動因子について詳しく説明できる
2-2-138	TDMのデータに基づいて適正な投与方法について提案できる
2-2-142	新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる
2-2-147	妊婦に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる
2-2-156	期待する効果が現れない、もしくは不十分である場合の対処法について提案できる
2-2-157	医薬品適正使用の観点から、未知(未経験)の症例に対する薬物使用に関する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる
2-3-9	医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の薬効に関する学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる
2-3-12	医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる
2-3-15	医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる
2-3-32	不適切な処方について、適切な事例もしくは代替案を提案できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード CLレベル別 CL レベル5

領域—般目標— 到達目標	到達目標(119項目)
2-3-34	相互作用および副作用の回避策を、過去の事例や資料、および患者の状態を勘案して提案できる
2-3-35	医薬品の有害作用について、患者の心情に配慮して説明できる。
2-3-37	医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用を適切に説明できる
2-3-39	相互作用と副作用の観点から、未知(未経験)の症例に対する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる
3-1-6	禁煙指導ができる
3-1-11	健康食品の最新情報を収集できる
3-1-12	病気の予防について適切に助言できる
3-1-14	顧客の要望を的確に把握し、必要とする情報を提供できる
3-1-15	医師への受診勧奨を適切に行うことができる
3-2-3	学校薬剤師として活動できる
3-2-5	訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を行うことができる
3-2-8	地域で麻薬や覚醒剤などの薬物乱用防止のための活動ができる
3-2-9	地域住民に対し医薬品の適正使用について啓発活動ができる
3-2-13	日用品に含まれる化学物質の危険性から回避するための方法を提案できる
3-2-14	誤飲や誤食による中毒に対して適切に助言できる
3-3-1	住民の家庭環境を把握し、適切に行動できる
3-3-2	居宅老人の介護状況を把握し、適切に対応できる
3-3-3	保健福祉活動の中で他職種と連携できる
3-4-4	災害発生時に適切な初期行動をとることができる
3-4-5	災害時に備えた適切な患者指導ができる
3-4-6	災害・緊急時に医薬品の供給と管理について指導できる
4-1-6	薬剤師が取り組む医療安全対策について、意義を理解し、要点を説明できる
4-2-2	医療過誤(事故)報告を分析し、その原因が解明できる
4-2-3	具体的な医療過誤(事故)防止対策が提案できる
4-2-4	実施中の医療過誤(事故)防止対策が評価できる
4-3-3	医療過誤(事故)発見時に適切に患者対応できる
4-3-4	医療過誤(事故)解決のため、適切に対処(行動)できる
4-3-5	メンタル面のフォローを含め医療過誤(事故)を起こした人に適切に対応できる
4-4-3	医療事故の起こりやすい因子について、詳しく説明できる
4-4-5	現場に即した医療事故防止のための業務手順書を作成できる
5-1-11	医療法の重要項目を説明できる
5-1-12	医師法の重要項目を列挙できる
5-1-13	医師法の重要項目について説明できる
5-1-14	健康保険法の重要項目を列挙できる
5-1-15	健康保険法の重要項目を説明できる
5-1-18	社会保障制度・医療保険制度を説明できる
5-1-19	介護保険法の重要項目について説明できる
5-1-21	処方せん偽造者及び薬剤師の間われる可能性がある責任について具体的法律を説明できる
5-1-22	薬事関連法規に基づき相談に対応できる

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード (PS)
(23 年度版)

領 域 別

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【1. ヒューマニズム(倫理)】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (60項目)	CL レベル
1-1-1	1. 生命の尊厳を認識するために、医療人としての倫理観と責任感を身に付ける	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識できる	1
1-1-2		医療の担い手として、社会のニーズを把握できる	3
1-1-3		医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる	3
1-1-4		医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案できる	5
1-1-5		医療倫理の歴史(ヘルシンキ宣言・ヒポクラテスの誓いなど)を概説できる	1
1-1-6		医療にかかわる倫理的問題を列挙できる	2
1-1-7		医療に関わる倫理的問題の概略と問題点を説明できる	4
1-1-8		薬剤師倫理規定を概説できる	1
1-1-9		薬剤師綱領を概説できる	1
1-1-10		薬剤師に係わる倫理的問題について討議できる	4
1-1-11		医療法第1条の2を概説できる	1
1-1-12		薬剤師法第1条について概説できる	1
1-1-13		人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議できる	4
1-1-14		環境に配慮する意義を考察し、討議できる	4
1-1-15		自らの体験を通して、生命の尊厳と医療のかかわりについて討議できる	5
1-1-16		救命救急に薬剤師が関わる意義を説明できる	5
1-1-17		死にかかわる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)について討議できる	5
1-1-18		予防、治療、延命、QOLについて説明できる	5
1-1-19		誕生にかかわる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる	5
1-1-20		医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植、再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる	5
1-1-21		医療にかかわる諸問題から、自ら課題を見だし、それを解決する能力を醸成する	5
1-2-1	2. 患者中心の医療を実現するために、チーム医療の一員としての基本的な知識・技能・態度を修得する	「薬剤師の接遇マニュアル」を概説できる	1
1-2-2		「薬剤師の接遇マニュアル」に基づいて行動できる	3
1-2-3		「対面話例集」を概説できる	1
1-2-4		「対面話例集」に基づいて行動できる	4
1-2-5		チームワークの重要性を例示して説明できる	1
1-2-6		薬剤師の職能を認識し、必要に応じて他職種に助言などを求めるなどの処置ができる	4
1-2-7		医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携の重要性を討議できる	4
1-2-8		医療スタッフとのコミュニケーションで、お互いの情報共有と連携を実践できる	5
1-2-9		他職種と連携を取り、協動的態度で役割を実践できる	5
1-2-10		言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる	3
1-2-11		相手の立場、文化、習慣が異なることを理解し、コミュニケーションのあり方に配慮できる	5
1-3-1	3. 患者および家族の心情を理解するために、薬剤師が担う行為の重要性を認識する	インフォームドコンセントの定義と必要性を説明できる	2
1-3-2		ファーマシューティカルケアについて説明できる	2
1-3-3		ファーマシューティカルケアに基づいて行動できる	4
1-3-4		患者の心理状態を把握し、配慮できる	3
1-3-5		相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応できる	5
1-3-6		不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議できる	2
1-3-7		ターミナルケアにおける薬剤師の役割について説明できる	4
1-3-8		ホスピスなどの施設の意義について説明できる	3
1-3-9		ターミナルケアにおける薬剤師の役割を実践できる	5
1-3-10		ホスピスなどの施設で薬剤師の役割を実践できる	5
1-3-11		疼痛緩和について説明できる	3
1-3-12		疼痛緩和ケアについて実践できる	5
1-3-13		末期患者の精神的ケアについて説明できる	4
1-3-14		末期患者の精神的ケアについて実践できる	5
1-3-15		認知症のケアについて説明できる	4
1-3-16		認知症のケアについて実践できる	5
1-3-17		対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる	4
1-3-18		病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる	5
1-3-19		患者および家族の心理状態を把握し、配慮できる	5
1-3-20		患者やその家族のもつ価値観が多様であることを認識し、総合的に実践できる	5
1-3-21		臨床心理学の必要性について説明できる	4
1-3-22		交流分析の必要性について説明できる	4
1-3-23		家族力学について理解し、実践できる	5
1-4-1	4. 患者が自分の疾患に正面から向き合い、治療に積極的に取り組めるようサポートするための知識・技能・態度を身に付ける	病名を宣告された患者や家族の心理状態について配慮できる	3
1-4-2		簡易的なカウンセリングスキルについて説明できる	4
1-4-3		患者やその家族の話を傾聴することができる	3
1-4-4		患者やその家族が持つ精神的な問題点を把握することができる	5
1-4-5		患者やその家族が、直面する問題に前向きに対処できるようサポートできる	5

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (243項目)	CL レベル
2-1-1	1. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品情報収集の手段を整備し信頼性の高い情報の収集・加工・活用の方を身につける	様々な情報源とその特徴について説明できる	1
2-1-2		情報収集に必要な設備について説明できる	1
2-1-3		情報通信機器を利用した文献検索の手順を列挙できる	1
2-1-4		情報通信機器を利用して医薬品に関する最新情報を収集できる	1
2-1-5		情報通信機器を活用した医療および医薬品情報を適切に収集できる	5
2-1-6		当該医薬品の最新の添付文書およびインタビューフォームが収集できる	1
2-1-7		当該医薬品および類縁化合物に関する臨床報告を収集できる	4
2-1-8		医療用医薬品と一般用医薬品の違いを説明できる	1
2-1-9		一般用医薬品に配合されている薬物を調べ、その薬効を説明できる	2
2-1-10		当該医薬品の費用対治療効果比を調べて説明できる	5
2-1-11		医療情報の信頼性やエビデンスレベルについて説明できる	2
2-1-12		医療情報の信頼性やエビデンスレベルを検証できる	5
2-1-13		質の高い医療情報に基づいて適切な薬剤を提案できる	5
2-1-14		医薬品の臨床報告(和文)の内容を簡潔に説明できる	2
2-1-15		医薬品の臨床報告(英文)の内容を簡潔に説明できる	5
2-1-16		学術および医学専門用語の意味を調べて説明できる	2
2-1-17		2つの変量の相関関係を定量的に説明できる	5
2-1-18		基本的な統計学を理解し、平均値と標準偏差の意味を説明できる	4
2-1-19		統計手法を用いる2つの平均値の有意差検定について詳しく説明できる	5
2-1-20		分散分析と多重比較について詳しく説明できる	5
2-1-21		正規分布を前提としない検定法について説明できる	5
2-1-22		添付文書やインタビューフォームの記載事項を、種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる	5
2-1-23		MRの提供情報を種々の学術情報の収集分析を通じて独自に検証できる	5
2-1-24		医薬品情報に対し、目的に応じた適切な取捨選択が行える	5
2-1-25		複数の学術資料を比較し、医薬品情報の信頼性や対立情報の有無を検証できる	5
2-1-26		体系的に収集・整理した医薬品情報の提供を、他の医療スタッフに対し適切に行える	5
2-1-27		体系的に収集・整理した医薬品情報を勉強会や学術集会で説明できる	5
2-1-28		医薬品の市販後(市販直後)調査の手順を説明できる	3
2-1-29		患者の求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる	3
2-1-30		医療スタッフの求めに応じ、医薬品情報を適切に説明できる	3
2-1-31		直面する医薬品の調剤学的、製剤学的問題点について改善方法を提案できる	5
2-1-32		医薬品の調剤学的、製剤学的問題点の解決法を提案できる	5
2-1-33		直面する医薬品の生物薬剤学的、薬理学的問題点について改善方法を提案できる	5
2-1-34		無菌操作と無菌製剤について説明できる	4
2-1-35		無菌操作と無菌製剤を適切に行える	5
2-1-36		保険診療における医薬品の保険適用について説明できる	3
2-1-37		添付文書の併用注意に関する情報の取捨選択が、その重要度に応じて行える	3
2-1-38		院内感染の標準的予防策(スタンダードプリコーション)を説明できる	4
2-1-39		院内外および地域における感染事例の情報を医療スタッフに適切に説明できる	4
2-1-40		代表的な消毒薬を列挙できる	1
2-1-41		代表的な消毒薬の使用法を説明できる	3
2-1-42		消毒対象に応じた適切な消毒薬の選択と消毒方法を提案できる	5
2-1-43		病原体の主な感染源と感染経路を列挙できる	3
2-1-44		院内感染の感染経路別対策について説明できる	4
2-1-45		未知(未経験)の症例に対し、知識と経験と最新の医薬品情報に基づいて、具体的方策を提案できる	5
2-1-46		母集団薬物動態学の概念と応用について説明できる	4
2-1-47		母集団薬物動態パラメーターを用いて、投与量の妥当性を評価できる	5
2-2-1	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	一般名に対応する後発医薬品について列挙できる	1
2-2-2		後発医薬品の選択を明確な理由に基づいて行える	1
2-2-3		心臓および血管系における代表的な疾患を列挙できる	2
2-2-4		不整脈の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-5		不整脈の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-6		不整脈に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-7		心不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-8		心不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-9		心不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-10		虚血性心疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-11		虚血性心疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-12		虚血性心疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-13		高血圧の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-14		高血圧の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (243項目)	CL レベル
2-2-15	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	高血圧に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-16		消化器系(胃・十二指腸、小腸・大腸、肝臓・胆道、膵臓)における代表的な疾患を列挙できる	2
2-2-17		消化性潰瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-18		消化性潰瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-19		消化性潰瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-20		炎症性腸疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-21		炎症性腸疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-22		炎症性腸疾患に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-23		腸炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-24		腸炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-25		腸炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-26		肝炎・肝硬変の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-27		肝炎・肝硬変の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-28		肝炎・肝硬変に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-29		膵炎の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-30		膵炎の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-31		膵炎に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-32		腎臓および尿路における代表的な疾患を列挙できる	2
2-2-33		腎不全の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-34		腎不全の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-35		腎不全に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-36		ネフローゼの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-37		ネフローゼの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-38		ネフローゼに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-39		生殖器に関する代表的な疾患を列挙できる	2
2-2-40		肺および気道における代表的な疾患を列挙できる	2
2-2-41		喘息および肺気腫の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-42		喘息および肺気腫の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-43		喘息に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-44		ホルモン産生臓器にかかる代表的な疾患を列挙できる	2
2-2-45		脳下垂体に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-46		脳下垂体に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-47		甲状腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-48		甲状腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-49		性腺に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-50		性腺に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-51		副腎に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-52		副腎に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-53		糖尿病とその合併症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-54		糖尿病とその合併症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-55		糖尿病とその合併症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-56		脂質代謝異常症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-57		脂質代謝異常症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-58		脂質代謝異常症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-59		高尿酸血症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-60		高尿酸血症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-61		高尿酸血症と痛風に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-62	神経および筋に関する代表的な疾患を列挙できる	2	
2-2-63	神経および筋に関する代表的な治療薬を列挙できる	2	
2-2-64	神経および筋に関する代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
2-2-65	脳血管疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
2-2-66	脳血管疾患の代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
2-2-67	てんかんの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
2-2-68	てんかんの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
2-2-69	てんかんに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5	
2-2-70	代表的な精神疾患を列挙できる	2	
2-2-71	統合失調症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	
2-2-72	統合失調症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4	
2-2-73	統合失調症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5	
2-2-74	うつ病、躁うつ病の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2	

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (243項目)	CL レベル
2-2-75	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	うつ病、躁うつ病の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-76		うつ病、躁うつ病に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-77		耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-78		耳鼻咽喉に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
2-2-79		皮膚疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-80		皮膚疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
2-2-81		眼に関する疾患の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-82		眼に関する疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
2-2-83		骨、関節に関する代表的な疾患を列挙できる	2
2-2-84		骨粗鬆症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-85		骨粗鬆症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
2-2-86		骨粗鬆症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-87		関節リウマチの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-88		関節リウマチの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	3
2-2-89		関節リウマチに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-90		代表的なアレルギーおよび免疫に関する疾患を列挙できる	2
2-2-91		アナフィラキシー・ショックの病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-92		アナフィラキシー・ショックの病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-93		アナフィラキシー・ショックに関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-94		後天性免疫不全症の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-95		後天性免疫不全症の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-96		後天性免疫不全症に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-97		移植に関連して使用される薬物について列挙できる	2
2-2-98		癌性疼痛に対して使用される薬物について列挙できる	2
2-2-99		主な感染症の病態と原因を説明できる	3
2-2-100		代表的な抗菌薬を体系的に分類し、抗菌スペクトルと作用機序を説明できる	3
2-2-101		薬剤耐性獲得の仕組みについて説明できる	4
2-2-102		代表的な抗真菌薬の作用機序を説明できる	3
2-2-103		代表的な抗ウイルス薬の作用機序を説明できる	3
2-2-104		臓器別悪性腫瘍の病態生理と代表的な治療薬を列挙できる	2
2-2-105		臓器別悪性腫瘍の病態生理ならびに代表的な治療薬の作用機序を説明できる	4
2-2-106		臓器別悪性腫瘍に関する最新の学術情報や治療薬情報に基づいて治療指針を提案できる	5
2-2-107		代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる	2
2-2-108		代表的な抗悪性腫瘍薬の作用機序と臨床応用を詳しく説明できる	5
2-2-109		栄養障害の病態生理と代表的な治療(対応)法を列挙できる	2
2-2-110		経腸栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる	4
2-2-111		経腸栄養療法の管理と合併症について説明できる	4
2-2-112		静脈栄養療法および代表的な栄養剤について説明できる	4
2-2-113		静脈栄養療法の管理と合併症について説明できる	4
2-2-114		在宅栄養療法について説明できる	4
2-2-115		褥瘡の治療法について説明できる	4
2-2-116		褥瘡の程度に応じて治療法を提案できる	5
2-2-117		陰陽五行説などの漢方の基本理論を簡単に説明できる	2
2-2-118		代表的な漢方方剤の構成とその作用を説明できる	4
2-2-119		EBMの基本概念と有用性について説明できる	4
2-2-120		薬物の用量と作用の関係について説明できる	3
2-2-121		薬物の体内動態と薬効の関係について説明できる	3
2-2-122	薬物の代表的な投与経路について、それぞれの特徴を説明できる	3	
2-2-123	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子を列挙できる	1	
2-2-124	経口投与薬物の吸収に影響を与える因子の作用機序について説明できる	4	
2-2-125	薬物の脳移行性と脳血液関門の特徴を説明できる	4	
2-2-126	薬物の胎児移行性について説明できる	1	
2-2-127	薬物と血漿タンパク質との結合と薬効の関係について説明できる	4	
2-2-128	薬物と血漿タンパク質との結合と薬物の組織移行性との関係について説明できる	4	
2-2-129	薬物の代謝様式と主要な代謝酵素について説明できる	4	
2-2-130	薬物の主要排泄経路と排泄様式について説明できる	1	
2-2-131	薬物の初回通過効果について説明できる	1	
2-2-132	薬物の初回通過効果の変動因子について詳しく説明できる	5	
2-2-133	薬物の肝クリアランスについて説明できる	4	
2-2-134	薬物の腎クリアランスについて説明できる	4	

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (243項目)	CL レベル
2-2-135	2. 患者の利益を最大限に守るため、医薬品適正使用に必要な学問的知識・技能・態度を身につける	薬物の血中濃度推移と全身クリアランス、分布容積について説明できる	4
2-2-136		反復投与時の薬物血中濃度推移について説明できる	4
2-2-137		TDMの意義について説明できる	3
2-2-138		TDMのデータに基づいて適正な投与方法について提案できる	5
2-2-139		薬物の体内動態と作用発現に影響を与える遺伝的素因について説明できる	4
2-2-140		新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1
2-2-141		新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3
2-2-142		新生児、乳幼児、小児に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる	5
2-2-143		高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1
2-2-144		高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3
2-2-145		妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1
2-2-146		妊婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3
2-2-147		妊婦に対する薬物治療で適用外もしくは未確立のものについて、その有効性を客観的に評価し、エビデンスとして提案できる	5
2-2-148		授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を列挙できる	1
2-2-149		授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる	3
2-2-150		腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる	2
2-2-151		腎臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる	4
2-2-152	肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる	2	
2-2-153	肝臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる	4	
2-2-154	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を列挙できる	2	
2-2-155	心臓疾患を伴った患者に対する薬物治療における注意点を説明できる	4	
2-2-156	期待する効果が現れない、もしくは不十分である場合の対処法について提案できる	5	
2-2-157	医薬品適正使用の観点から、未知(未経験)の症例に対する薬物使用に関する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる	5	
2-3-1	3. 患者の利益を最大限守るために、重篤な副作用や相互作用について理解する	患者とのコミュニケーションを通して、不適切な服薬状況を見出せる	3
2-3-2		患者とのコミュニケーションを通して、栄養障害の兆候を見出せる	4
2-3-3		患者とのコミュニケーションを通して、不適切な薬理効果を見出せる	4
2-3-4		患者とのコミュニケーションを通して、副作用発現の兆候を見出せる	4
2-3-5		患者とのコミュニケーションを通して、薬物相互作用の兆候を見出せる	4
2-3-6		診療記録や看護記録、検査所見などから、薬効や副作用、相互作用に関する情報を収集できる	3
2-3-7		医療スタッフが日常使用している専門用語を正確に説明できる	3
2-3-8		医療スタッフとの情報交換を通じ、重篤な副作用の初期症状を見出せる	4
2-3-9		医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の薬効に関する学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる	5
2-3-10		医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発現の可能性を見出せる	4
2-3-11		医療スタッフとの情報交換を通じ、副作用を見出せる	4
2-3-12		医療スタッフとの情報交換を通じ、医薬品の副作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる	5
2-3-13		医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用の可能性を見出せる	4
2-3-14		医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用を見出せる	4
2-3-15		医療スタッフとの情報交換を通じ、薬物相互作用発生の学術的考察ができ、それを科学的根拠として提案できる	5
2-3-16		心臓・血管系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-17		消化器系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-18		腎臓・尿路系疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-19		精神神経疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-20		代謝性疾患に使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-21		産科婦人科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-22		小児科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-23		老年科で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-24		外科・整形形成外科領域で使用される薬物に関する代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-25		抗菌薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる	3
2-3-26		抗悪性腫瘍薬の代表的な副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-27		代表的な外用薬に関する副作用とその兆候を説明できる	3
2-3-28		代表的な漢方薬・漢方製剤に関する副作用とその兆候を説明できる	4
2-3-29		代表的な医薬品の適用症例を列挙できる	2
2-3-30		代表的な漢方薬・漢方製剤の用法・用量を列挙できる	2
2-3-31		不適切な処方について、その理由を説明できる	2
2-3-32		不適切な処方について、適切な事例もしくは代替案を提案できる	5
2-3-33		相互作用および副作用の回避策を列挙できる	4

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【2. 医薬品の適正使用(安全性、経済性)】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標(243項目)	CL レベル
2-3-34	3. 患者の利益を最大限守るために、重篤な副作用や相互作用について理解する	相互作用および副作用の回避策を、過去の事例や資料、および患者の状態を勘案して提案できる	5
2-3-35		医薬品の有害作用について、患者の心情に配慮して説明できる。	5
2-3-36		医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用に関する報告が行える	4
2-3-37		医師に対し、予測される、もしくは生じている医薬品の有害作用を適切に説明できる	5
2-3-38		副作用および薬物相互作用の疑いのある事例について、公的機関への報告が行える	4
2-3-39		相互作用と副作用の観点から、未知(未経験)の症例に対する最善の策を、知識と経験に基づいて提案できる	5

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【3. 地域住民の健康増進(薬物乱用防止、セルフメディケーション)】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (38項目)	CL レベル
3-1-1	1. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、疾病とその予防に対する基本的な知識・技能・態度を身につける	セルフメディケーションの必要性を適切に説明できる	1
3-1-2		セルフメディケーションのための健康食品を適切に提案できる	3
3-1-3		一般用医薬品の第一類、二類、三類について概説できる	1
3-1-4		セルフメディケーションのための一般用医薬品を適切に提案できる	3
3-1-5		飲酒と喫煙が健康に及ぼす影響について説明できる	2
3-1-6		禁煙指導ができる	5
3-1-7		食生活が健康に及ぼす影響を説明できる	3
3-1-8		食育の必要性を説明できる	3
3-1-9		健康食品による有害作用を説明できる	3
3-1-10		食品及び健康食品と医薬品の相互作用を説明できる	3
3-1-11		健康食品の最新情報を収集できる	5
3-1-12		病気の予防について適切に助言できる	5
3-1-13		顧客に対してわかりやすい言葉、表現を用い説明できる	3
3-1-14		顧客の要望を的確に把握し、必要とする情報を提供できる	5
3-1-15		医師への受診勧奨を適切に行うことができる	5
3-2-1	2. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、薬剤師としての地域保健活動を身につける	麻薬や覚醒剤が人体に及ぼす影響について説明できる	2
3-2-2		学校薬剤師の役割と活動を説明できる	2
3-2-3		学校薬剤師として活動できる	5
3-2-4		訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務について説明できる	2
3-2-5		訪問薬剤(居宅療養)管理指導業務を行うことができる	5
3-2-6		ドーピングとその有害作用について説明できる	3
3-2-7		地域におけるスポーツファーマシストの役割と活動を説明できる	3
3-2-8		地域で麻薬や覚醒剤などの薬物乱用防止のための活動ができる	5
3-2-9		地域住民に対し医薬品の適正使用について啓発活動ができる	5
3-2-10		話題性のある薬物についてわかりやすく説明できる	3
3-2-11		日常生活における衛生管理の概念を説明できる	3
3-2-12		日用品に含まれる化学物質の危険性を説明できる	3
3-2-13		日用品に含まれる化学物質の危険性から回避するための方法を提案できる	5
3-2-14		誤飲や誤食による中毒に対して適切に助言できる	5
3-3-1	3. 地域住民が健康的な日常生活を送るために、薬剤師として地域福祉に貢献するための知識・技能・態度を身につける	住民の家庭環境を把握し、適切に行動できる	5
3-3-2		居宅老人の介護状況を把握し、適切に対応できる	5
3-3-3		保健福祉活動の中で他職種と連携できる	5
3-4-1	4. 災害緊急時に対応するために、薬剤師として必要な知識・技能・態度を身につける	心肺停止状態に対応するための基本的な知識を概説できる	2
3-4-2		心肺停止状態を判断でき、自動体外式除細動器を適切に取り扱うことができる	4
3-4-3		災害時における薬剤師の役割について説明できる	4
3-4-4		災害発生時に適切な初期行動をとることができる	5
3-4-5		災害時に備えた適切な患者指導ができる	5
3-4-6		災害・緊急時に医薬品の供給と管理について指導できる	5

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【4. リスクマネジメント】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (20項目)	CL レベル
4-1-1	1. 国民に安心・安全な医療を提供するために、必要な医療安全対策の方法を身につける	医療過誤(事故)のレベルの分類が説明できる	2
4-1-2		「ヒヤリハット事例」を報告できる	1
4-1-3		医療安全に関する重要な情報を収集できる	3
4-1-4		医薬品がもつ危険性について、説明できる	3
4-1-5		過去に起こった医療過誤(事故)事例について、内容を説明できる	4
4-1-6		薬剤師が取り組む医療安全対策について、意義を理解し、要点を説明できる	5
4-2-1	2. 医療の安全性を高めるために、医療事故防止の対策を修得する	医療過誤(事故)発見時に適切に報告できる	2
4-2-2		医療過誤(事故)報告を分析し、その原因が解明できる	5
4-2-3		具体的な医療過誤(事故)防止対策が提案できる	5
4-2-4		実施中の医療過誤(事故)防止対策が評価できる	5
4-3-1	3. 国民に安心・安全な医療を提供するために、医療過誤(事故)発生時における、適切な対処方法を身につける	医療過誤(事故)発生時の対応の流れについて説明できる	4
4-3-2		医療過誤(事故)の発見時に必要部署に報告できる	3
4-3-3		医療過誤(事故)発見時に適切に患者対応できる	5
4-3-4		医療過誤(事故)解決のため、適切に対処(行動)できる	5
4-3-5		メンタル面のフォローを含め医療過誤(事故)を起こした人に適切に対応できる	5
4-4-1	4. 医療の安全性をより高めるために、リスク管理を行う習慣を身につける	医療安全管理指針と業務手順書を理解し、遵守して業務を遂行できる	2
4-4-2		ヒューマンエラーおよびメカニカルエラーが不可避であることを認識し、それぞれの危険性について列挙できる	3
4-4-3		医療事故の起こりやすい因子について、詳しく説明できる	5
4-4-4		「薬局・薬剤師のための調剤事故防止マニュアル」を理解し、説明できる	3
4-4-5		現場に即した医療事故防止のための業務手順書を作成できる	5

薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード 領域別

【5. 法律制度の遵守】

領域- 一般目標- 到達目標	一般目標	到達目標 (22項目)	CL レベル
5-1-1	薬剤師の社会的責 務を果たすために、 薬剤師を取り巻く法 律・制度を理解する	薬事法の重要な項目を列挙できる	2
5-1-2		薬事法の重要な項目を説明できる	3
5-1-3		薬剤師法の重要な項目を列挙できる	2
5-1-4		薬剤師法の重要な項目を説明できる	3
5-1-5		薬剤師に関連する法令の構成を説明できる	3
5-1-6		麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法等を説明できる	1
5-1-7		麻薬及び向精神薬取締法覚せい剤取締法等に基づき、適切な取り扱い・管理が実践 できる	3
5-1-8		個人情報保護法について説明できる	1
5-1-9		薬剤師の基本的責任を逸脱した場合の罰則法律を説明できる	3
5-1-10		医療法の重要項目を列挙できる	3
5-1-11		医療法の重要項目を説明できる	5
5-1-12		医師法の重要項目を列挙できる	5
5-1-13		医師法の重要項目について説明できる	5
5-1-14		健康保険法の重要項目を列挙できる	5
5-1-15		健康保険法の重要項目を説明できる	5
5-1-16		保険医療機関及び保険医療養担当規則を説明できる	3
5-1-17		保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則を説明できる	3
5-1-18		社会保障制度・医療保険制度を説明できる	5
5-1-19		介護保険法の重要項目について説明できる	5
5-1-20		調剤過誤発生時の法的責任について説明できる	4
5-1-21		処方せん偽造者及び薬剤師の間われる可能性がある責任について具体的法律を説 明できる	5
5-1-22		薬事関連法規に基づき相談に対応できる	5

「JPALS」の検討、周知の経過

- 平成22年9月より、PS、CLに加え、CPDや英国で導入されているポートフォリオを参考に、システムの検討を開始。

↓

- 平成23年3月13日～6月1日の約3ヶ月間、ポートフォリオシステムの実用性、有用性を検証するため、北海道薬剤師会、熊本県薬剤師会の協力を得て、web上でモデル地区事業を試行。

↓（モデル地区事業で得た意見や検証結果を考慮し、ポートフォリオシステムの仕様、CLの設計など、細部を検討。）

- 平成23年10月30日 生涯学習担当者全国会議（23年度第1回）開催。
システムの説明のほか、都道府県ブロックに分かれて「本稼動に向けて、どのように一人でも多くの会員に周知するか～予想される問題と対策～」をテーマにディスカッションおよび発表、討論を行った。

↓（全国会議での意見、要望等を受け、検討および調整。）

- 平成23年12月26日、生涯学習支援システム「JPALS」について、都道府県薬剤師会会長宛て通知。

↓

- 日本薬剤師会雑誌平成24年1・2月号に、「JPALS」の解説を掲載。

↓

- 平成24年2月19日 生涯学習担当者全国会議（23年度第2回）開催。
システム説明のほか、パソコンを使用してシステムのデモ体験を実施。

↓

- 日本薬剤師会雑誌平成24年3月号で、別冊付録「JPALS」を配付。

生涯学習宣言

平成 24 年 4 月 1 日を「薬剤師の生涯学習元年」として高らかに宣言します。

生涯学習委員会では 8 年前からこの日を夢見てきました。その間、プロフェッショナルスタンダードを発表して学習の指標を示しました。そしてクリニカルラダーとポートフォリオを加えて 3 本柱とし、JPALS を完成させました。

現在、日本には薬剤師免許の更新制度がありません。自らが率先して薬剤師職能の更新をしなければなりません。つまり、国民から信頼される薬剤師になるためには、生涯に亘って研鑽し続けることが必要です。

日本のすべての薬剤師が、この JPALS を利用して国民の信頼に応えていくことを、心より願っております。

生涯学習委員会

生涯学習委員会 平成 22 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

(敬称略)

委員長	上村 直樹	(株)ファーマック 富士見台調剤薬局
副委員長	高濱 寛	良寛堂薬局
委員	水島 久美	(株)和商 水島薬局
	相原 由香	萬屋薬局
	平山 一男	日本薬剤師研修センター
	中森 慶滋	中森全快堂新庄薬局
	藤森 和良	大坂屋薬局
	近藤 剛弘	(株)ファイン総合研究所 ファイン調剤薬局
	伊藤 譲	(株)レーベンプラン レモン薬局
	西 洋壽	天神赤壁薬局
	丸谷 典央	ハヤシ薬局
	合葉 哲也	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
	山本 晃之	代々木薬局
	矢野 光	高知赤十字病院
	福森 一真	二葉薬局
	上田 彩	聖マリアンナ医科大学病院
担当副会長	七海 朗	
主担当理事	栗野 信子	
副担当理事	清水 秀行、中西 光景、福島 紀子、宮崎長一郎	

